

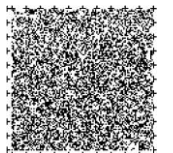


第2次日野市スポーツ推進計画

～誰でもスポーツに取り組みやすいまち～



令和5年3月策定
日野市



「第2次日野市スポーツ推進計画」の策定にあたって

スポーツとは、全ての人が健康で豊かな生活を営むために重要な役割を果たしています。スポーツを通じて、人々の心身の健康を保持したり、青少年の健全育成や地域コミュニティの活性化に貢献したりと、スポーツのチカラは様々な場面で大きく寄与しています。

近年では、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの生活様式が変化を遂げてきましたが、コロナが流行した当初はスポーツが不要不急のものであるかのごとく扱われることがありました。それでも、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、日本の選手が活躍している姿は観ている人たちに感動と勇気を与え、このような大規模イベントを開催するためには様々なスポーツを支える人たちの存在が必要不可欠であることを改めて実感することとなりました。



日野市ゆかりの選手も、ここ数年、世界で活躍しています。令和 3 年に開催された東京 2020 パラリンピックのバドミントン競技において、日野市在住の山崎悠麻選手が女子ダブルス（車いす）クラスで金メダル、女子シングルス（車いす）クラスで銅メダルを獲得されたほか、令和 4 年 8 月に開催された全米女子アマチュアゴルフ選手権において、日野市出身の馬場咲希選手が、日本人選手として37年ぶり2人目の優勝という快挙を成し遂げました。

このお二方にとどまらず、小学生・中学生・高校生のアスリートも毎年様々な大会で活躍しており、将来の飛躍が期待されるところです。

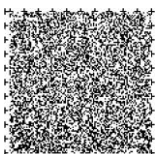
第2次日野市スポーツ推進計画では、今後スポーツ事業を展開していく上で、スポーツを「する」「観る」「支える」の3つの視点を念頭に置きながら、本計画の基本方針を「①スポーツの機会・場所の創出②障害者スポーツの普及③スポーツのまち日野をめざして」と定めました。

この基本方針に紐づく具体的施策を、令和 5 年度から令和 9 年度の計画期間をもって、それぞれの課題解決・目標実現に向けて今後事業を展開して参ります。

目指すは、基本理念である「誰でもスポーツに取り組みやすいまち」、この先も、市民の皆様の生活の中にスポーツや運動が「人生の大きな柱」となりますように、そしてスポーツや運動を通じて皆様の人生が豊かになるよう、今後行政としての役割を果たして参りたいと思います。

結びに、本計画の策定に携わっていただいた策定委員の皆様、アンケート調査やヒアリングに御協力いただいた皆様、さらにはパブリックコメントにご意見をお寄せいただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

令和5年3月 日野市長 大坪 冬彦



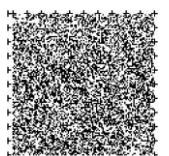
目次

第1章 第2次日野市スポーツ推進計画について

1 計画策定における社会的背景	2
(1) 超高齢化社会を迎える日本	2
(2) 新型コロナウイルス感染症の影響	2
(3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーの継承	2
2 計画における「スポーツ」の定義	3
3 計画における「スポーツ」の意義	4
4 計画の位置付け	5
5 計画の期間	5
6 SDGs について	6
(1) 「SDGs」とは	6
(2) 「SDGs」×「日野市」	6
(3) 「SDGs」×「スポーツ」	6

第2章 日野市のスポーツにおける現況と課題について

1 計画策定に伴うアンケート調査の結果について	8
(1) 令和 2 年に「日野市スポーツ推進計画に関するアンケート調査」を実施	8
(2) 成人のスポーツ活動について	9
(3) 子どものスポーツ活動について	16
(4) 障害者スポーツについて	21
2 関連団体へのヒアリングについて	23
(1) 調査概要について	23
(2) 調査結果について	24
3 スポーツ環境について	33
(1) スポーツをする場所について	33
(2) 日野市のスポーツを支える人びとについて	39
4 スポーツによる街の賑わいの創出について	41
(1) 日野市を拠点に活躍するトップスポーツチーム	41
(2) 日野市ゆかりのアスリート選手	42
5 日野市のスポーツにおける「課題」について	43



第3章 スポーツ推進の基本施策について

1 基本理念	45
2 計画目標	45
3 スポーツ推進の基本方針	46
4 スポーツ推進施策の体系	47
(1) 施策の体系図について	47
(2) 施策の方向について	48

第4章 スポーツ推進施策の具体的展開

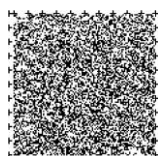
基本施策1 スポーツの機会・場所の創出	51
基本施策2 障害者スポーツの普及	58
基本施策3 スポーツのまち日野をめざして	60

第5章 計画の推進について

1 計画の推進体制と進行管理	66
(1) 推進体制	66
(2) 進行管理	67

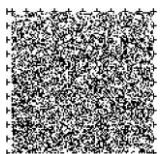
資料編

「第2次日野市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱」	69
「第2次日野市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱の一部を改正する要綱」	70
「第2次日野市スポーツ推進計画策定経過」	71
「第2次日野市スポーツ推進計画策定委員会」	72



第1章

第2次日野市スポーツ推進計画について



Ⅰ 計画策定における社会的背景

(1) 超高齢化社会を迎える日本

日本社会の高齢化は急速に進行し、高齢化率¹7%（高齢化社会）から 14%（高齢社会）に到達する期間は 24 年でした。例えば、同じ変化をフランスと比較すると 126 年、スウェーデンでは 85 年となっており、日本の高齢化が急激に進んでいることがわかります。

また、日野市の人口から見る高齢化率も、令和 4 年時点で約 25%と上昇傾向にあります。

今後、高齢化の影響により、国民医療費・社会保障費の増加や現役世代の負担が増加するなど様々な問題が顕著になっていきます。

しかし、今後人口の多くを占める高齢者が、年齢を重ねても心身ともに元気であることができればこのような問題は抑制されていきます。

また、体力の保持や健康を増進するためにはスポーツや運動の存在は必要不可欠です。スポーツや運動を単にエンターテインメントとするのではなく、社会問題を解決する 1 つの方法として捉えることが重要となっています。

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の拡大により、スポーツが「不要不急」のものであるかのごとく扱われ、日々の生活から失われたり、制限されたりすることで、個人の視点で捉えた場合、体力の低下やストレスの増加といった心身の健康保持への悪影響、閉塞感のまん延、日頃の成果発表の機会の喪失等の影響を及ぼしました。

しかし、これらの様々な問題が顕在化したことで、スポーツや運動が日頃、私たちの生活や社会に活力を与えるなど、優れた効果を及ぼすことが改めて示されることとなりました。

このような状況下においても、市民がスポーツの価値を見出せるよう、スポーツ実施の推進により力を入れていくことが重要となっています。

(3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーの継承

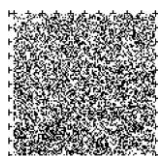
東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和 3 年度に開催が延期となりました。

1 年延期となりコロナ禍での開催となりましたが、多くの日本選手が活躍し、その中でメダルを獲得している姿を見て、改めてスポーツが「人々の心を動かす力」や「楽しさ」という感情を湧かせることが再確認できました。

大会を契機として、今後も市民のスポーツに対する機運を高めていき、レガシー²を生かしたスポーツイベントを開催するなど様々な取組を実施していくことが重要となっています。

¹ 高齢化率：高齢化率とは、総人口に占める 65 歳以上の人口の割合を指す。日野市の高齢化率は、日野市の人口に占める 65 歳以上の人口の割合を指す。

² レガシー (legacy)：レガシーとは本来、過去に築かれた、精神的・物理的遺産の意であるが、ここではオリンピック・パラリンピック競技大会等の開催により、開催都市や開催国が、長期にわたり継承・享受できる、大会の社会的・経済的・文化的恩恵のことを指す。



2 計画における「スポーツ」の定義

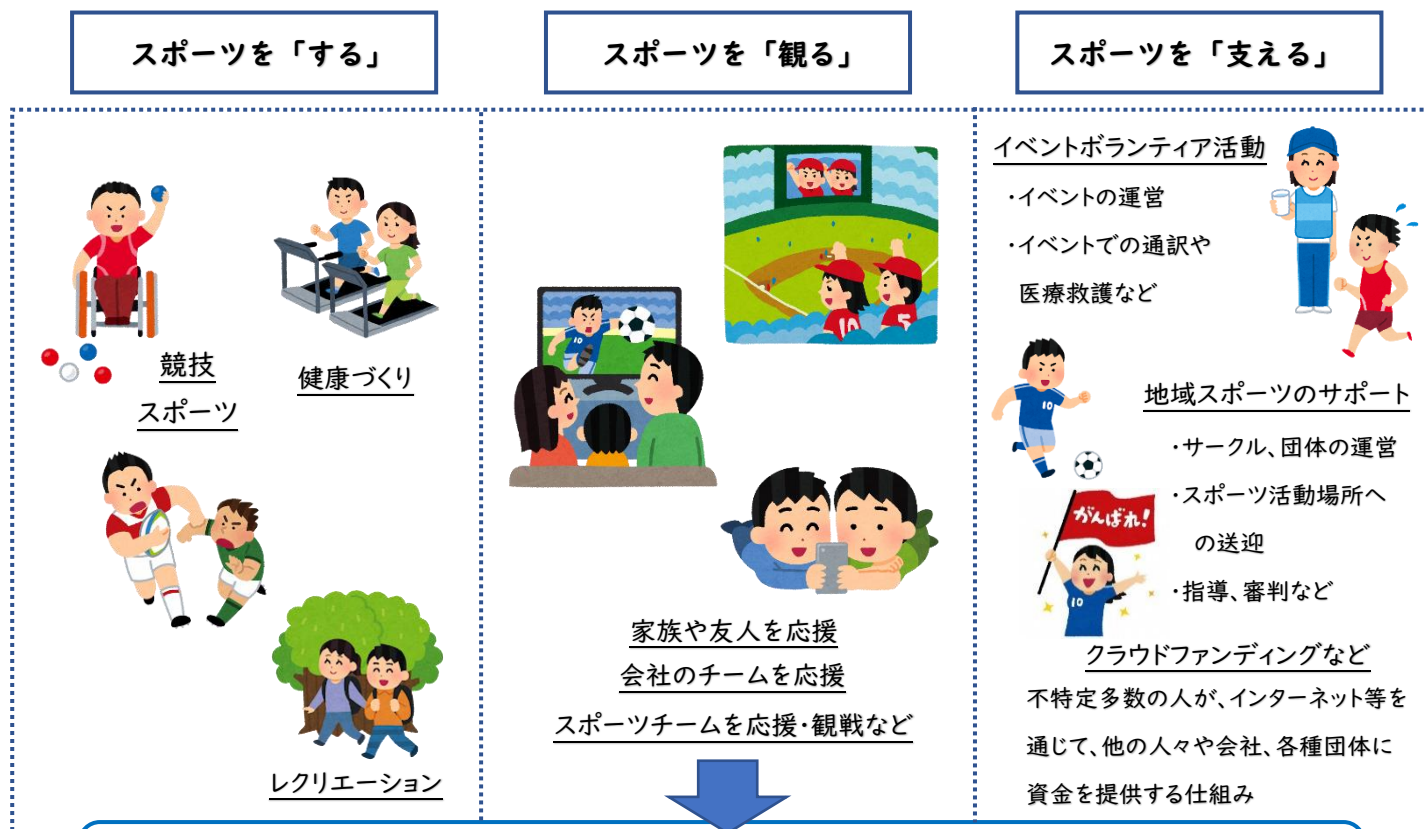
スポーツ基本法において、スポーツは「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵(かん)養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」とであると定義づけられています。

第2次日野市スポーツ推進計画(以下、「本計画」とします。)では、第1次計画に引き続き、野球やサッカーのような競技スポーツはもちろん、ハイキングやキャンプなどのレクリエーション、体操やウォーキングなどの健康づくりや仕事・家事の合間などのちょっとした運動を含む、体を使った運動すべてを「スポーツ」と捉えることとします。

また、近年では「eスポーツ³」や「マインドスポーツ⁴」といった大きな身体活動を伴わない競技もスポーツとして捉える動きがありますが、今回の策定では定義としては含めず、今後国や他市の動向を把握することに努めていきます。

そして、今後スポーツを「する」人だけではなく、家族や友人、スポーツチームの活躍を「観る」人、様々なスポーツを「支える」人の活動もスポーツ活動の一部として、それぞれの関わり方を支援していきます。

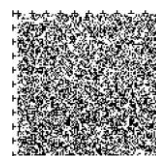
図表1 本計画におけるスポーツの考え方



***年齢・性別・障害の有無に関係なく、全ての市民がそれぞれのライフスタイルに応じて楽しむことができる
「する」「観る」「支える」全てのスポーツを「スポーツ活動」と捉えます**

³ eスポーツ(esports):「エレクトロニック・スポーツ」の略で、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。

⁴ マインドスポーツ:高い思考能力を用いて競われるゲームを一種のスポーツと見なしたもの。(例:囲碁、将棋、チェスなど)



3 計画における「スポーツ」の意義

「スポーツ」は、人間の本源的な欲求に応えるものであり、スポーツを行うことによって得られる爽快感、達成感、連帯感などは精神的な充足をもたらします。スポーツで体を動かすことは、喜びや楽しみなどの満足感をもたらす、明日への活力を生むなど心身の発達や健康なライフスタイルの形成を行う上で、必要不可欠な要素となっています。

市民が個々のライフスタイルや体力に応じ、日常生活にスポーツを取り入れることで、いつまでも健康で自立した生活を実現する「健康寿命」を延長し、今後の超高齢社会の到来に伴って増大が予想される社会保障費の抑制にも大きく繋がっていくことが期待されています。

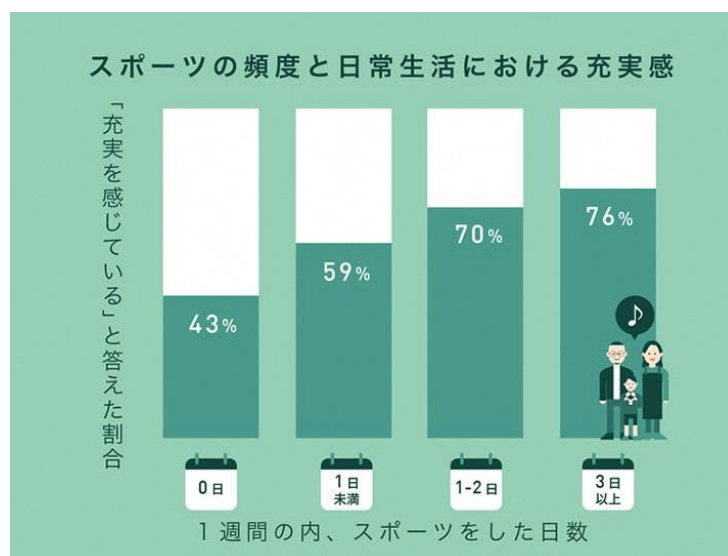
また、新型コロナウイルス感染症により様々な影響が生じたものの、これを機にオンラインを活用したスポーツや運動活動が普及し始め、メディア媒体を利用して自宅にいてもスポーツができる時代へと変化してきました。この発展により、地域で孤立している人や健康上等の理由で外出が困難な人等、多様な人々が平等にスポーツを実施できることが期待できます。

さらに、スポーツには、自ら行う「するスポーツ」やスポーツ観戦などの「観るスポーツ」に加え、ボランティアとして大会運営に関わるなどの「支えるスポーツ」という 3 つの要素があり、個人の志向に応じた多様かつ長期的な関わり方ができます。

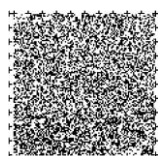
スポーツの推進により、個人の体力向上や健康維持・増進などの個人的効果、医療費の抑制やスポーツツーリズム⁵などの経済的効果、青少年の健全育成やコミュニティの再生などの社会的効果など、多面的な効果が期待されます。

全ての市民がスポーツに参加できるような施策を展開し、ともに楽しむスポーツ社会の構築は市民の健康を「つくる」とともに、21 世紀の豊かで活力ある新たな地域社会を形成する基盤になると考えられます。

図表 2 スポーツの頻度と日常生活における充実感



参考文献：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（2019年1月）より引用



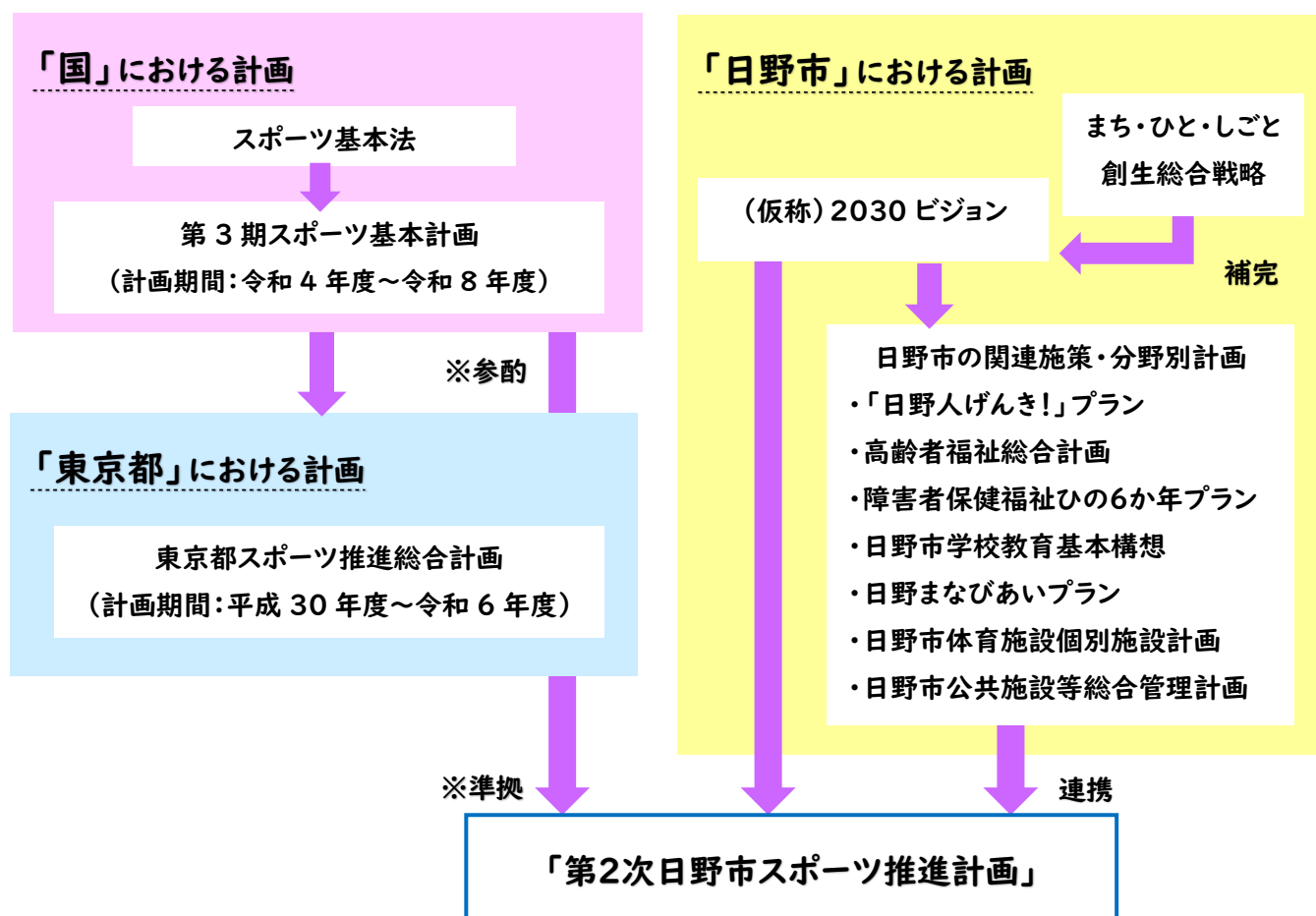
⁵ スポーツツーリズム：スポーツを観に行くための旅行及びそれに伴う周辺観光や、スポーツを支える人々との交流などスポーツに関わる様々な旅行を指す。

4 計画の位置付け

本計画は、「スポーツ基本法」第10条第1項に基づく、「地方スポーツ推進計画」であり、日野市におけるスポーツ関連施策の総合的な推進を図るための計画として位置付けられています。

また、日野市の基本構想・計画である「(仮称)2030 ビジョン」の個別計画として位置付け、(仮称)2030ビジョンが示す基本理念や都市像を実現するために、他の関連計画との連携を図りながら日野市のスポーツ推進施策を具体化し、年齢や性別、障害等を問わず、全ての市民が、個々の関心・適正等に応じてスポーツを主体的に取り組むことのできる環境づくりを目指します。

図表 3 計画の位置付け



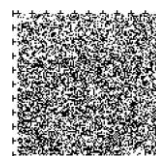
※「参考」:十分に参照した結果としてであれば、地域の実情に応じて、異なる内容を定めることが許容されるもの

※「準拠」:あるものをよりどころにして、それに従うこと

5 計画の期間

本計画の計画期間は、「令和5年度から令和9年度」の5年間とし、中・長期的な視点

を持って、今後のスポーツ施策を推進していきます。



6 SDGs について

(1) 「SDGs」とは

「SDGs(エス・ディー・ジーズ)」とは、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標で、平成 27 年に国連のサミットで採択されました。令和 12 年を達成年度とし、17 のゴールと 169 のターゲットから構成されています。

(2) 「SDGs」×「日野市」

「日野市」は、令和元年 7 月に東京都内では初の「SDGs未来都市」に選定されました。

令和 12 年にあるべき姿を「市民・企業・行政の対話を通じた生活・環境課題産業化で実現する 生活価値(QOL)共創都市 日野」と定め、今後日野市の政策立案にあたり SDGsの視点を組み入れつつ、郊外都市における社会・経済・環境の統合的な変革モデルとなることを目指します。

(3) 「SDGs」×「スポーツ」

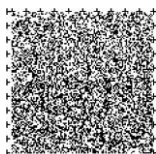
「スポーツ」は、健康や教育、コミュニティ強化など、SDGsの達成に寄与する活動として考えられることから、スポーツ庁では、スポーツの力による SDGsの達成に向けた取組を推進しています。

本計画においても、スポーツ庁などの取組を参考としながら、日野市の様々なスポーツ施策と SDGs を関連付け、17 のゴールの目標達成に向けて今後事業を進めて参ります。

図表4 SDGs の 17 のゴール

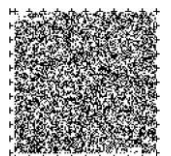


日野市は、持続可能な開発目標 (SDGs) を推進しています。



第 2 章

日野市のスポーツにおける現況と課題について



Ⅰ 計画策定に伴うアンケート調査の結果について

(Ⅰ) 令和 2 年に「日野市スポーツ推進計画に関するアンケート調査」を実施

本計画の策定にあたり、市民のスポーツ活動の実態、スポーツへの意識を把握するため、「日野市スポーツ推進計画に関するアンケート調査」(以下、「アンケート調査」とします。)を実施しました。

本章では、このアンケート調査の結果に加えて、体育施設の利用状況などを整理し、日野市におけるスポーツ環境の現況を課題としてまとめました。

【調査の概要】

●成人向け調査	
調査対象	20 歳以上の市民(年代や居住地域に偏りが生じないよう無作為抽出)
調査期間	令和 2 年 3 月 12 日～令和 2 年 3 月 27 日まで(郵送による配布・回収)
有効回収率	49.9%(配布数:2,000 通、有効回収数:998 通)
●小中学生向け調査	
調査対象	日野市内小学 5 年生及び中学 2 年生の各校 1 クラスの児童・生徒とその保護者(中学校は市内全校、小学校は市内 8 つの中学校区から 8 校を地域に偏りが生じないよう抽出)
調査期間	令和 2 年 7 月 8 日～令和 2 年 7 月 21 日まで(各学校への直接配布・回収)
有効回収率	92.7%(配布数:565 通、有効回収数:524 通)

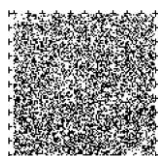
「調査結果を見る上での注意事項」について

①「データの比較」について

調査結果の中で、平成 26 年調査(第 1 次計画)と令和 2 年調査(第 2 次計画)を比較している箇所がございますが、調査対象や調査母数が異なるため、「参考」としてご覧ください。

②「成人の定義」について

令和 4 年 4 月から、成年年齢が 18 歳に引き下げられましたが、本計画において成人への調査を行った時期が令和 2 年 3 月であったため、本市の調査結果として記載している「成人」とは「20 歳以上」を表しています。



(2) 成人のスポーツ活動について

①「スポーツ実施率」について

アンケート調査の結果、令和 2 年の「スポーツ活動を週 1 回以上実施している人の割合（スポーツ実施率）」は 58.4%となりました。

平成 26 年調査のスポーツ実施率 43.6%と比較をすると、以前よりも上昇傾向であることがわかります。

また、国のスポーツ実施率は、令和 3 年に 56.4%となっており、東京都は平成 30 年に 57.2%、令和 2 年に 60.4%と 3.2 ポイント増加しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、遠方への外出等が制限され、スポーツや運動の機会も減少したものと考えられましたが、スポーツ実施率は上昇傾向にあります。

市民の健康増進への意識の変化や身近でできるスポーツへの取組や関心の高さに注目する必要があります。

また、国の統計によると障害のある方のスポーツ実施率は令和3年度に 31.0%となり、令和2年度の 24.9%からは 6.1 ポイント増加しています。

しかしながら、成人全般と比べ障害のある方は約半分の実施率となっています。運動やスポーツに関する情報がなく、やりたいのにやれない人や、運動やスポーツの楽しさや効果を知らないままにいる人が多いとすれば、その機会を増やすことが必要です。

これらの結果を踏まえて、今後もスポーツ実施率の向上に向けて、様々な具体的施策を検討していきます。

「スポーツ実施率」

「スポーツ実施率」とは、国の第3期スポーツ基本計画において、スポーツ推進の目標として設定されている指標で、「週 1 回以上スポーツ活動を実施している成人の割合」を指しています。

国の第3期スポーツ基本計画、東京都の東京都スポーツ推進総合計画では、それぞれ以下のように目標値が示されています。

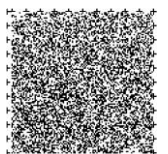
第 3 期スポーツ基本計画の施策目標（計画期間：令和 4 年度～令和 8 年度）
--

「成人の週 1 回以上のスポーツ実施率を 70%以上（障害のある方は 40%）に」

東京都スポーツ推進総合計画の数値目標（計画期間：平成 30 年度～令和 6 年度）

「成人の週 1 回以上のスポーツ実施率を 70%以上（障害のある方は 40%）に」

→本計画の第3章にて日野市のスポーツ実施率の目標値を記載



②スポーツや運動の「活動状況」について

②-1 スポーツや運動の種類

「この1年間に行ったスポーツや運動は何か」という質問に対し、全体で見ると「ウォーキング・散歩」の割合が71.0%と最も高く、次いで「体操（ラジオ体操、エクササイズ、ヨガなどを含む）」の割合が31.6%、「登山、トレッキング、ハイキング」の割合が17.7%となりました。⁶

また、年代別で見ると全ての年代でウォーキングが1位を占めています。

ウォーキングは、年代を問わず誰でも気軽に始められ、コロナ禍においても人と人との間隔を意識して行えるため、今後も需要が高まっていくことが推測されます。

図表 5 この1年間に行ったスポーツや運動（年代別）

N=回答者数

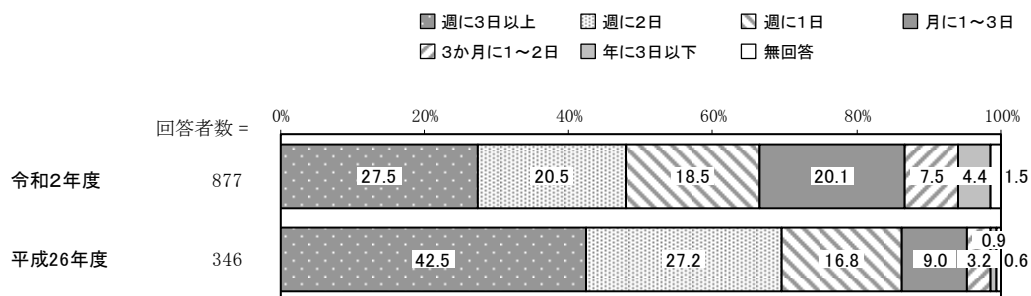
20 歳代 (N=66)			30 歳代 (N=125)			40 歳代 (N=184)		
順位	種目	回答率 (%)	順位	種目	回答率 (%)	順位	種目	回答率 (%)
1	ウォーキング	62.1	1	ウォーキング	65.6	1	ウォーキング	70.1
2	体操	39.4	2	体操	28.0	2	体操	27.7
3	ジョギング	31.8	3	室内運動器具	17.6	3	ジョギング	24.5

50 歳代 (N=168)			60 歳代 (N=164)			70 歳代 (N=199)		
順位	種目	回答率 (%)	順位	種目	回答率 (%)	順位	種目	回答率 (%)
1	ウォーキング	67.9	1	ウォーキング	73.2	1	ウォーキング	78.4
2	体操	32.7	2	体操	31.7	2	体操	33.7
3	室内運動器具	22.6	3	登山・トレッキング・ハイキング	19.5	3	登山・トレッキング・ハイキング	16.6

②-2 スポーツや運動を行う日数

「スポーツや運動を行っている日数はどれくらいか」という質問に対し、「週に3日以上」の割合が27.5%と最も高く、次いで「週に2日」の割合が20.5%、「月に1～3日」の割合が20.1%となりました。

図表 6 スポーツや運動を行っている日数

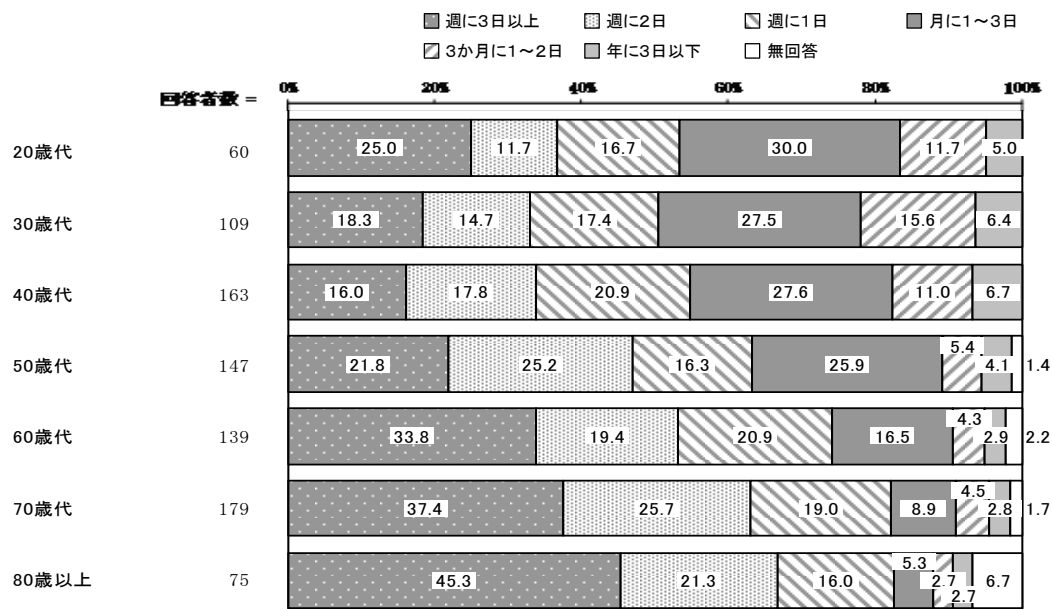


⁶ 「日野市スポーツ推進計画に関するアンケート調査（成人向け）調査結果報告書 P.9」の情報を引用

②-3 スポーツや運動を行う日数（年代別） ※②-2の調査結果の年代別

年代別でみると、40 歳代以上で年代が上がるにつれ「週に3日以上」の割合が高くなっていきます。また、他に比べ、20 歳代から 40 歳代で「3か月に1～2日」の割合が高くなっています。

図表7 スポーツや運動を行っている日数（年代別）

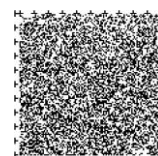
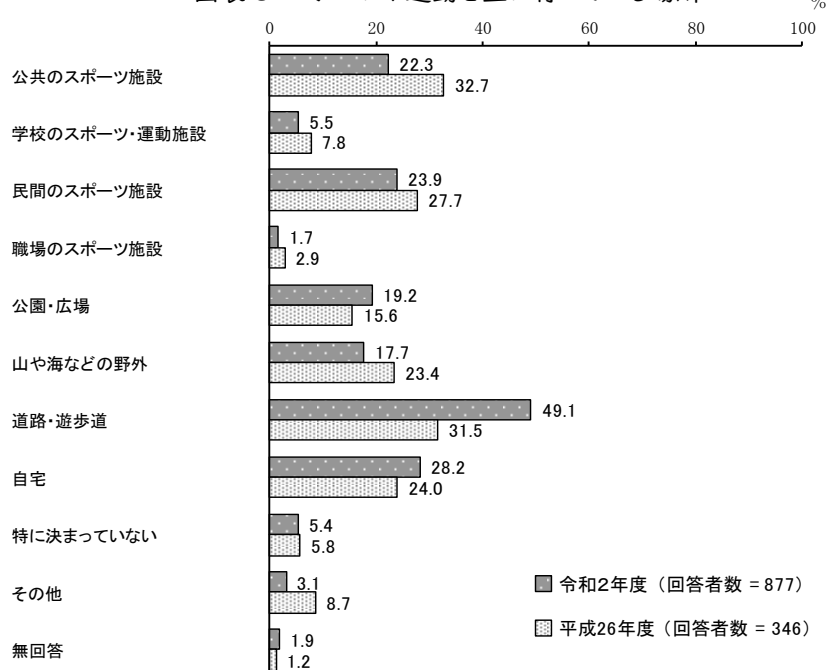


②-4 スポーツや運動を行っている場所

「スポーツや運動を主にどのような場所で行っているか」という質問に対し、「道路・遊歩道」の割合が49.1%と最も高く、次いで「自宅」の割合が28.2%、「民間のスポーツ施設」の割合が23.9%となっています。

ウィズコロナやアフターコロナを考えると、引き続き、自宅やその周辺の道路や遊歩道をスポーツや運動を行う場所として、利用される方は多いと推測されます。

図表8 スポーツや運動を主に行っている場所

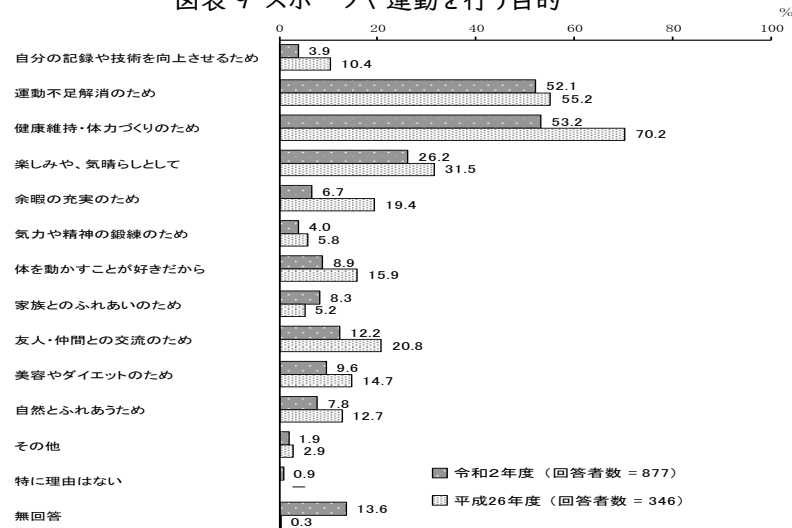


③スポーツや運動に対する「意識」について

③-1 スポーツや運動を行う目的

「どのような理由でスポーツや運動を行っているか」という質問に対し、「健康維持・体力づくりのため」の割合が53.2%と最も高く、次いで「運動不足解消のため」の割合が52.1%、「楽しみや、気晴らしとして」の割合が26.2%となっています。

図表 9 スポーツや運動を行う目的

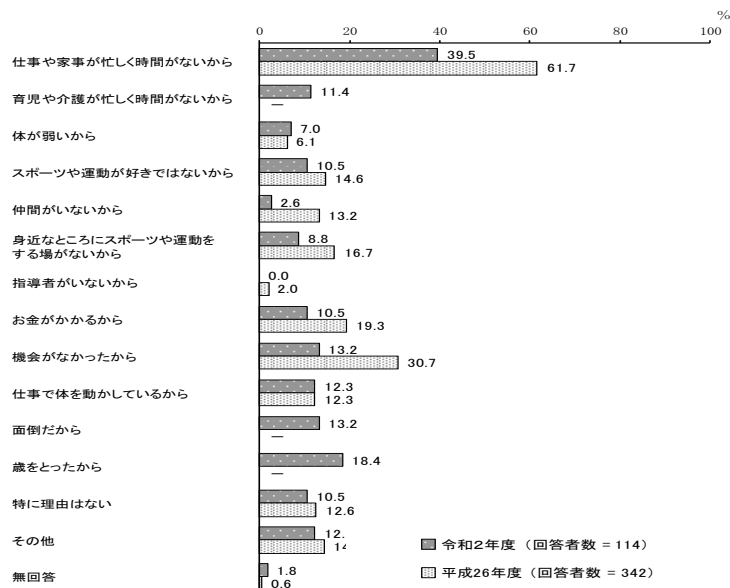


③-2 スポーツや運動をしていない理由

「スポーツや運動をしていない理由は何か」という質問に対し、「仕事や家事が忙しく時間がないから」の割合が39.5%と最も高く、次いで「歳をとったから」の割合が18.4%、「機会がなかったから」の割合が13.2%となっています。

また、年代別に見ると、30歳代以上で年代が若いほど「仕事や家事が忙しく時間がないから」の割合が高くなっています⁷。

図表 10 スポーツや運動をしていない理由



⁷ 「日野市スポーツ推進計画に関するアンケート調査（成人向け）調査結果報告書 P.19」の情報を引用

③-3 今後新しく行ってみたい、今後も続けていきたいスポーツや運動

「今後新しく行ってみたい、または今後も続けていきたいと思うスポーツや運動はあるか」という質問に対し、「ウォーキング・散歩」の割合が**57.1%と最も高く**、次いで「体操」の割合が31.8%、「登山・トレッキング・ハイキング」の割合が20.5%となっています。

平成26年調査と比較すると、「ウォーキング・散歩」の割合が25.4ポイント増加しています。

コロナの影響も含めて、ウォーキング・散歩、体操など、気軽に始められ、身近で楽しむことができるスポーツや運動の需要が高まっています。

図表11 今後新しく行ってみたい、今後も続けていきたいスポーツや運動（上位5つ）

令和2年			平成26年		
順位	種目	回答率(%)	順位	種目	回答率(%)
1	ウォーキング・散歩	57.1	1	ウォーキング・散歩	31.7
2	体操	31.8	2	水泳(水中歩行・水中運動を含む)	27.8
3	登山・トレッキング・ハイキング	20.5	3	室内運動器具を使う運動	25.7
4	室内運動器具を使う運動	16.8	4	太極拳	20.4
5	水泳(水中歩行・水中運動を含む)	16.4		登山・トレッキング・ハイキング	
			5	体操	11.5

コラム1

「日野市ウォーキングマップ」を持って歩いてみませんか？

日野市では、市内の各所で「日野市ウォーキングマップ」を配布しています。

このマップは、「文化編・河川編・四季編・緑地編」の4つで構成されており、コースを選んで、そのマップを見ながら歩くことができます。

ウォーキングは、年代を問わず誰でも気軽に始められるスポーツです。

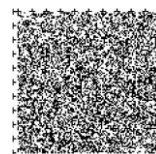
このマップを使って、自分自身の健康を増進し、同時に日野市の魅力を再発見してみませんか？

※「配布場所」については、日野市役所文化スポーツ課スポーツ係へお問い合わせください。

(Tel:042-514-8465)



↑ 4つのコースマップがあります



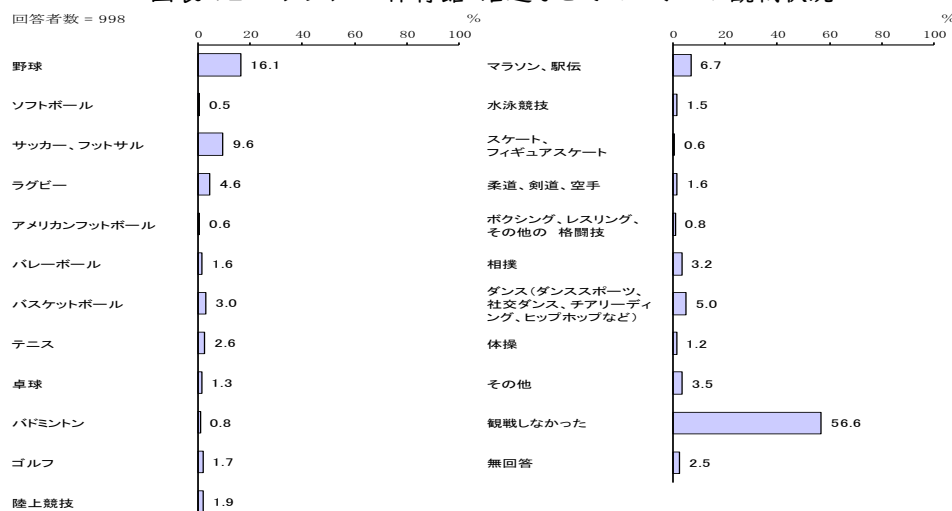
④スポーツの「観戦状況」について

④-1 スタジアム・体育館・沿道などでのスポーツ観戦

「この1年間にスタジアム・体育館・沿道などで実際にスポーツを観戦したことがあるか」という質問に対し、「観戦しなかった」の割合が **56.6%**と最も高く、次いで「野球」の割合が16.1%となっています。

選手が試合や競技に挑戦する姿を「観る」ことから得られる感動に加え、更に「応援」することを通じて、選手と観客が一つとなれる一体感や帰属意識等を得ることが可能になると考えられます。

図表 12 スタジアム・体育館・沿道などでのスポーツ観戦状況

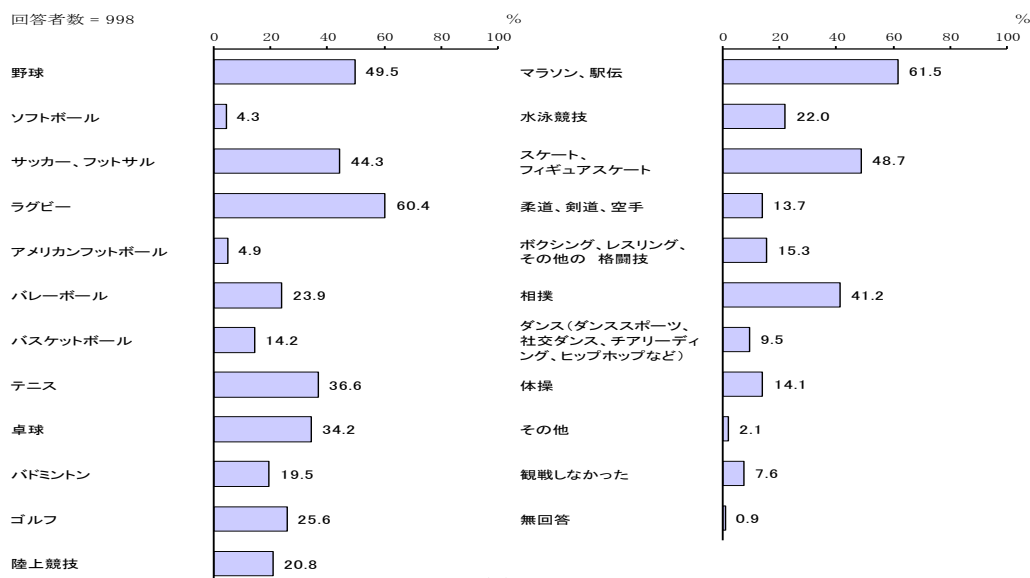


④-2 テレビ・ラジオ、インターネット配信などでのスポーツ観戦

「この1年間にテレビ・ラジオ、インターネット配信などでスポーツを観戦したことがあるか」という質問に対し、「マラソン、駅伝」の割合が **61.5%**と最も高く、次いで「ラグビー」の割合が60.4%、「野球」の割合が49.5%となっています。

市民がどのスポーツを観戦することに興味があるのかを見極めて、積極的に情報を発信していくことが重要であると考えます。

図表 13 テレビ・ラジオ、インターネット配信などでのスポーツ観戦状況



⑤スポーツを「支える活動」について

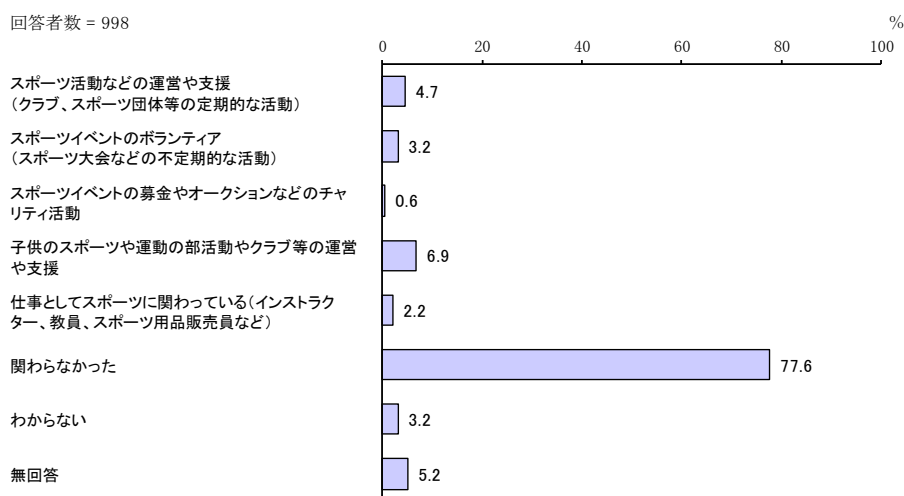
「この1年間にスポーツを支える活動に関わったか」という質問に対し、「関わらなかった」の割合が**77.6%**と最も高くなっています。

スポーツを「する」割合は高くても、スポーツを「支える」割合は低い状況にあります。

スポーツを支える形は、人によって様々ですが、スポーツボランティア等の情報を積極的に発信し、まずは「支える」活動に対して興味を持っていただくことが重要であると考えます。

また、スポーツが得意でない人に対して、無理に行うのではなく、「支える」という観点からスポーツに関わっていただく機会を創出していくことも重要であると考えます。

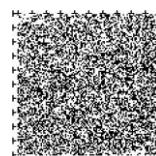
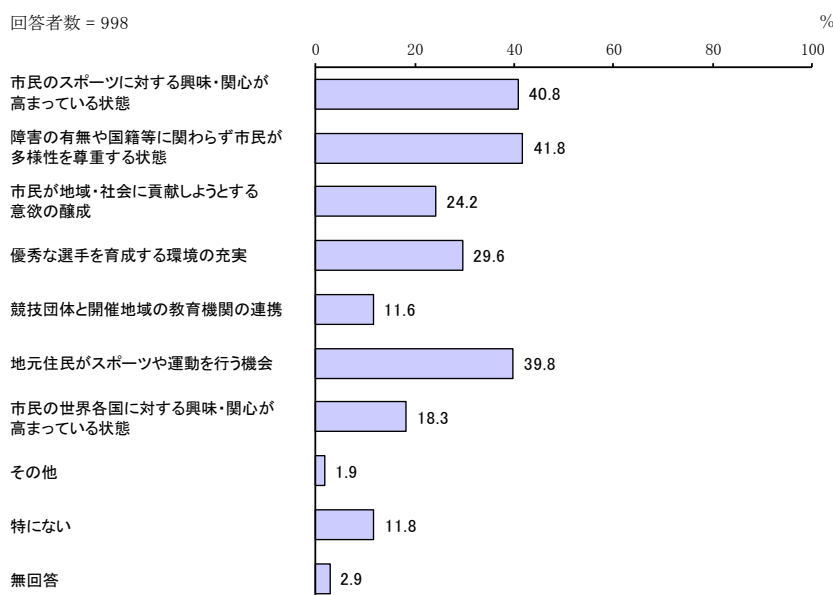
図表 14 この1年間にスポーツを支える活動に関わったか



⑥東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシー（遺産）について

「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会以降も残すべきもの(レガシー)はどのようなことだと思うか」という質問に対し、「障害の有無や国籍等に関わらず市民が多様性を尊重する状態」の割合が**41.8%**と最も高く、次いで「市民のスポーツに対する興味・関心が高まっている状態」の割合が40.8%、「地元住民がスポーツや運動を行う機会」の割合が39.8%となっています。

図表 15 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会以降も残すべきもの(レガシー)



(3) 子どものスポーツ活動について

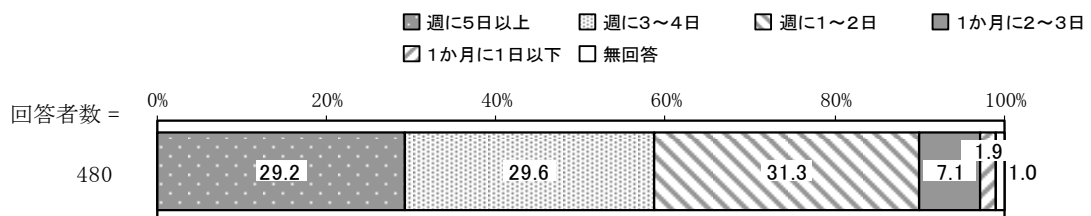
① スポーツや運動の活動状況について

①-1 スポーツや運動を行う日数

「体育の授業以外で、スポーツや運動をしている日数はどのくらいか」という質問に対し、「週に1～2日」の割合が31.3%と最も高く、次いで「週に3～4日」の割合が29.6%、「週に5日以上」の割合が29.2%となっています。

自宅でのメディア利用時間が増えていたり、勉強や習い事などで忙しくて時間がないという子どもたちが増えているものの⁸、スポーツや運動をする時間は一定時間確保できていることが推測されます。

図表 16 体育の授業以外でスポーツや運動を行う日数



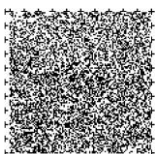
①-2 スポーツや運動の種類

「体育の授業以外でしているスポーツや運動は何か」という質問に対し、「ジョギング・ランニング」の割合が41.0%と最も高く、次いで「ウォーキング・散歩」の割合が39.4%、「水泳（水中歩行・水中運動などを含む）」の割合が29.2%となっています。

成人の調査結果と同じく、子どもたちの中でもジョギング・ランニングやウォーキング・散歩など身近で行うことができ、気軽に始められるスポーツの需要が高まっていることが推測できます。

図表 17 体育の授業以外でしているスポーツや運動の種類（上位5つ）

令和2年		
順位	種目	回答率 (%)
1	ジョギング・ランニング	41.0
2	ウォーキング・散歩	39.4
3	水泳（水中歩行・水中運動などを含む）	29.2
4	バドミントン	23.5
5	サッカー・フットサル	22.7



⁸ 参考文献：笹川スポーツ財団が隔年で実施している「4～21歳のスポーツライフに関する調査」の情報を引用

②スポーツや運動に対する「意識」について

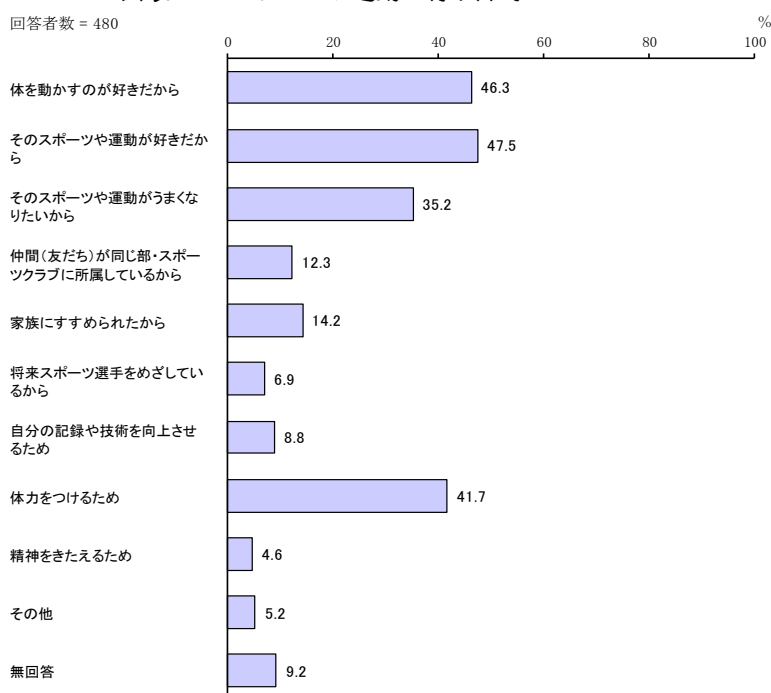
②-1 スポーツや運動を行う目的

「どのような理由でスポーツや運動をしているか」という質問に対し、「そのスポーツや運動が好きだから」の割合が **47.5%**と最も高く、次いで「体を動かすのが好きだから」の割合が 46.3%、「体力をつけるため」の割合が 41.7%となっています。

「スポーツや運動が好き」、「体を動かすことが好き」という子どもたちが多くいることが見受けられます。

そんな子どもたちの想いを大切にしながら、引き続き子どもたちがスポーツを楽しめる環境を整えていくことが重要であると考えます。

図表 18 スポーツや運動を行う目的



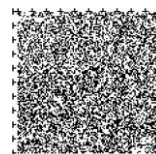
②-2 スポーツや運動をしていない理由

「スポーツや運動をしていない理由は何にか」という質問に対し、「スポーツや運動が好きではないから」の割合が **70.3%**と最も高く、次いで「勉強や習い事などでいそがしく時間がなから」の割合が 21.6%、「自分のやりたいスポーツや運動をする場所がないから」の割合が 16.2%となっています⁹。

今後、どうしたら子どもたちにスポーツや運動を好きになってもらえるか具体的な施策を検討していく必要があります。



⁹ 「日野市スポーツ推進計画に関するアンケート調査（小中学生向け）調査結果報告書 P.10」の情報を引用



②-3 新しく始めたい、これからも続けていきたいスポーツや運動

「新しく始めたい、これからも続けていきたいと思うスポーツや運動は何か」という質問に対し、「ジョギング・ランニング」の割合が 30.3%と最も高く、次いで「ウォーキング・散歩」の割合が 29.8%、「バドミントン」の割合が 24.0%となっています。

成人の同じ質問の回答が「1位 ウォーキング・散歩」であるのに対して、子どもたちは「1位 ジョギング・ランニング」となり、「走る」ということに興味を持っていることが推測できます。

図表 19 新しく始めたい、これからも続けていきたいスポーツや運動（上位5つ）

令和2年		
順位	種目	回答率 (%)
1	ジョギング・ランニング	30.3
2	ウォーキング・散歩	29.8
3	バドミントン	24.0
4	水泳（水中歩行・水中運動を含む）	21.2
5	ダンス・バレエ・日本舞踊	18.7
	テニス・ソフトテニス	
	サッカー・フットサル	

コラム 2

お父さんやお母さんが子どもの頃と、今の子どもたちを比べて見ると？



身長・基礎的運動能力の比較

	男子		女子	
	親の世代	今の子ども達	親の世代	今の子ども達
身長 (cm)	143.2	144.9 (↑ 1.7)	145.5	147.1 (↑ 1.6)
50m走 (秒)	8.8	8.9 (0.1)	9.0	9.2 (0.15遅い)
ソフトボール投げ (m)	34.0	26.7 (↓ 7.4)	20.5	16.4 (↓ 4.1)

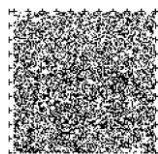
※親の世代は昭和50年度の11歳(改)、今の子どもたちは令和元年度の11歳(改)
※全国平均値は小数点以下第2位で四捨五入しています。

※参考文献：子どもの体力向上ホームページより情報を引用

文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、現在の子どもの体力・運動能力の結果をその親の世代である 30 年前と比較すると、ほとんどのテスト項目において、子どもの世代が親の世代を下回っています。

体格は向上しているにもかかわらず、体力・運動能力が低下していることは、身体能力の低下が深刻な状況であることを示しているといえます。

今後、子どもたちの体力・運動能力を向上させていくためにはどのような取組を行うべきか検討していく必要があります。



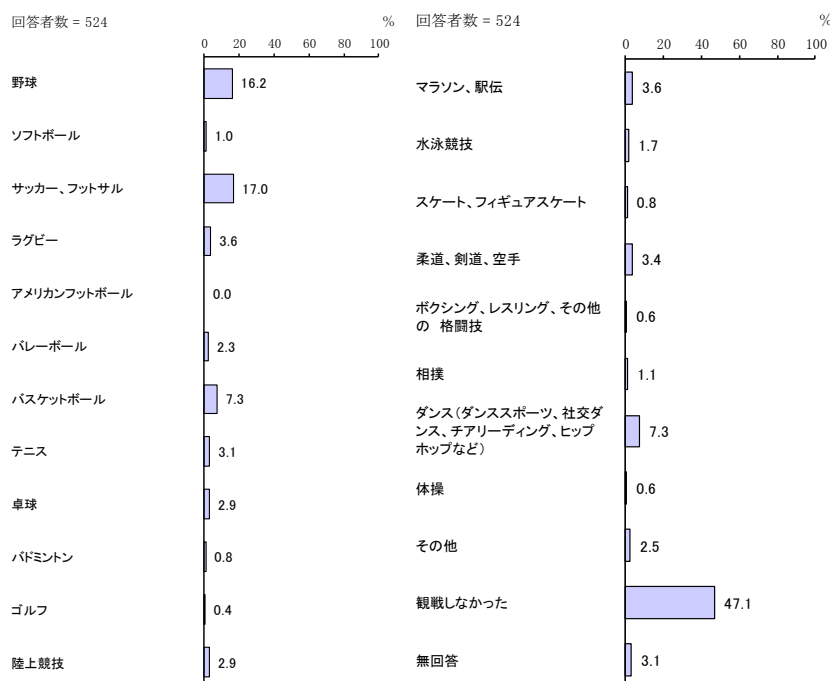
③スポーツの「観戦状況」について

③-1 スタジアム・体育館・沿道などでのスポーツ観戦

「この1年間にスタジアム・体育館・沿道などで実際にスポーツを観戦したことがあるか」という質問に対し、「観戦しなかった」の割合が **47.1%と最も高く**、次いで「サッカー、フットサル」の割合が 17.0%となっています。

成人の調査結果と同様、コロナの影響もあり、大会自体が無観客で開催されたり、直接会場へ行くことを迷われた方たちも多いのではと推測できます。

図表 20 スタジアム・体育館・沿道などでのスポーツ観戦状況



③-2 テレビ・ラジオ、インターネット配信などでのスポーツ観戦

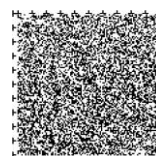
「この1年間にテレビ・ラジオ、インターネット配信などでスポーツを観戦したことがあるか」という質問に対し、「野球」の割合が **40.5%と最も高く**、次いで「ラグビー」の割合が 39.9%、「サッカー、フットサル」の割合が 39.7%となっています¹⁰。

このデータから、これらのスポーツはテレビ中継される機会も多いため、子どもたちの観戦が多かったことが推測できます。

子どもたちがスポーツを「する」「観る」「支える」という3つの柱の中で、「観る」スポーツをきっかけにスポーツを好きになってもらえるような取組を行っていくことが重要であると考えます。



¹⁰ 「日野市スポーツ推進計画に関するアンケート調査（小中学生向け）調査結果報告書 P.13」の情報を引用



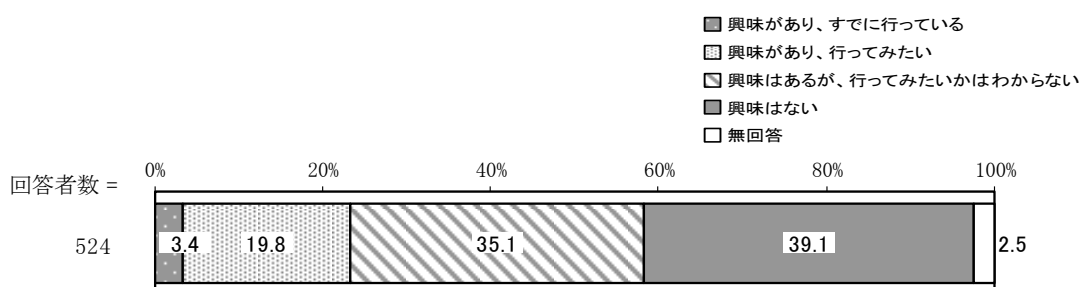
④スポーツを「支える活動」について

「他の人が行うスポーツや運動の手伝いや世話など、スポーツ活動を支えるボランティア活動に興味はあるか」という質問に対し、「興味があり、すでに行っている」、「興味はあるが、行ってみたいかはわからない」、「興味があり、行ってみたい」を合わせた「興味がある」方の割合が58.3%となっています。

令和2年度に行われるはずであった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、令和3年度に延期となり、併せて無観客での開催となったことなどから、大型イベントでのスポーツボランティアの機会が減少してしまいました。

コロナの影響で、イベントの形が変化しつつありますが、今後どのような形で子どもたちがスポーツボランティアと関わっていくか検討していく必要があります。

図表21 スポーツを支えるボランティア活動に興味はあるか



コラム3

スポーツを「支える人」にはどんな人がいるのだろう⑩？

スポーツの大会や試合、イベントを実施するには、必ず「支える人」の存在が必要不可欠です。また、時に支える側に、時には支えられる側になることで人と人との絆や思いやる心を育むことができると考えられます！



※ここへ記載した方たちはあくまで一例です。

※参考文献：国の第3期スポーツ基本計画

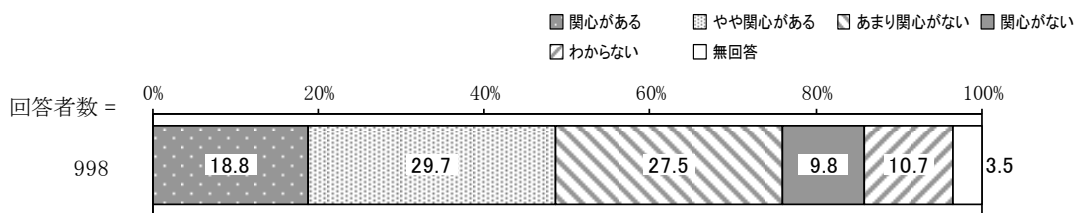
(4) 障害者スポーツについて

① 障害者スポーツへの意識について

①-1 成人の障害者スポーツへの興味

「障害者スポーツに関心があるか」という質問に対し、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた「関心がある」割合が **48.5%**、「あまり関心がない」と「関心がない」を合わせた「関心がない」の割合が 37.3%となっています。

図表 22 障害者スポーツに関心があるか



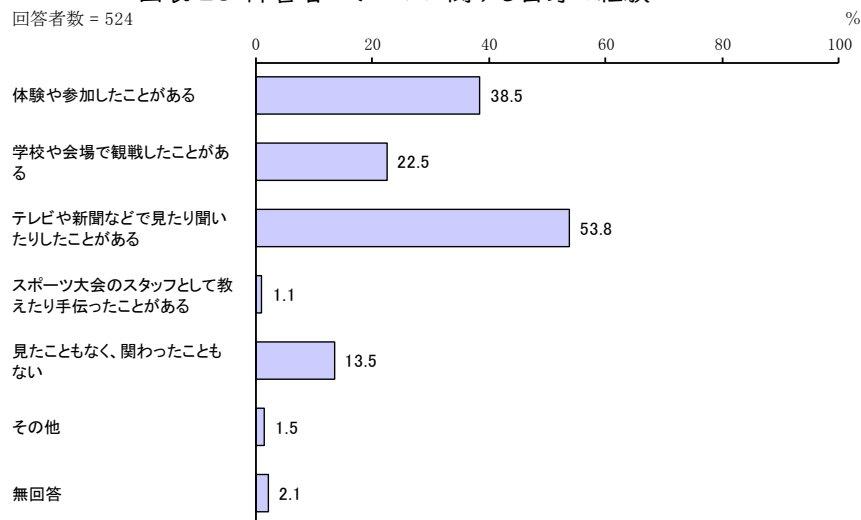
①-2 子どもの障害者スポーツに関する自身の経験

「障害がある人が行うスポーツ（車いすバスケットボール、ボッチャなど）に関する自身の経験があるか」という質問に対し、「テレビや新聞などで見たり聞いたりしたことがある」の割合が **53.8%と最も高く**、次いで「体験や参加したことがある」の割合が 38.5%、「学校や会場で観戦したことがある」の割合が 22.5%となっています。

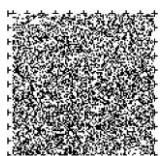
これからの共生社会を生きていく子どもたちに対して、今後障害者スポーツを通じて、障害を理解してもらうための取組を推進していくことが重要であると考えます。

また、障害者スポーツを見たり、体験したことのある人は、経験のない人に比べると、障害のある方や障害者スポーツに対する意識にポジティブな影響を与えていることが、明らかになっています¹¹。

図表 23 障害者スポーツに関する自身の経験



¹¹ 参考文献：同志社大学スポーツ健康科学部藤田紀昭氏「障害者スポーツ，パラリンピックおよび障害者に対する意識に関する研究」の論文を引用



コラム4

「UD スポーツ、障害者スポーツ・バリアフリースポーツ」をご紹介します！

*「UD スポーツ」とは？

「UD」とは、アメリカ生まれの「Universal Design (ユニバーサルデザイン)」のことで、「みんなにとってつかいやすいデザイン」という意味です。

これに「スポーツ」という言葉がつくと、「みんなで楽しめるスポーツ」という意味になり、「みんな」は、若い人もお年寄りも性別関係なく、そして障害のある人もない人も全ての人が含まれています。

種目は、ボッチャ、ハンドロウル、卓球バレーなどのスポーツがあります。

*「障害者スポーツ・バリアフリースポーツ」とは？

「障害者スポーツ」は、障害のある人がするスポーツを指します。障害があっても行えるように用具やルールなどが工夫されています。一方で、バリアフリースポーツという言葉も使われています。

世の中では、あらゆる方が障害者スポーツを体験して、障害を理解する様々な取組が行われています。

★近年、障害のある・なしや性別、年齢を超えて、みんなが楽しめるようにはじめからデザインされたスポーツが増えています！

コラム5

日野市で開催！「パラバドミントン体験教室」

令和4年9月に日野市立南平体育館にて、パラバドミントンの体験教室を実施しました。

このイベントでは、競技用車いすの乗り方からパラバドミントンの実技までを体験しました。

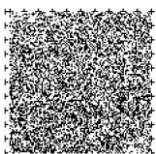
講師には、パラバドミントン強化指定選手をお迎えし、とても貴重な機会となりました。

当日は、小学生の参加者が多く、「初めての車いすでもとても難しかった。」「選手とプレーできて嬉しかった。」という感想をいただきました。

今後もイベントを通して、「障害者スポーツを知ること」「障害を理解することの大切さ」を市民の皆さまへ伝えていけたらと考えています。



↑パラバドミントンで使用する競技用車いす

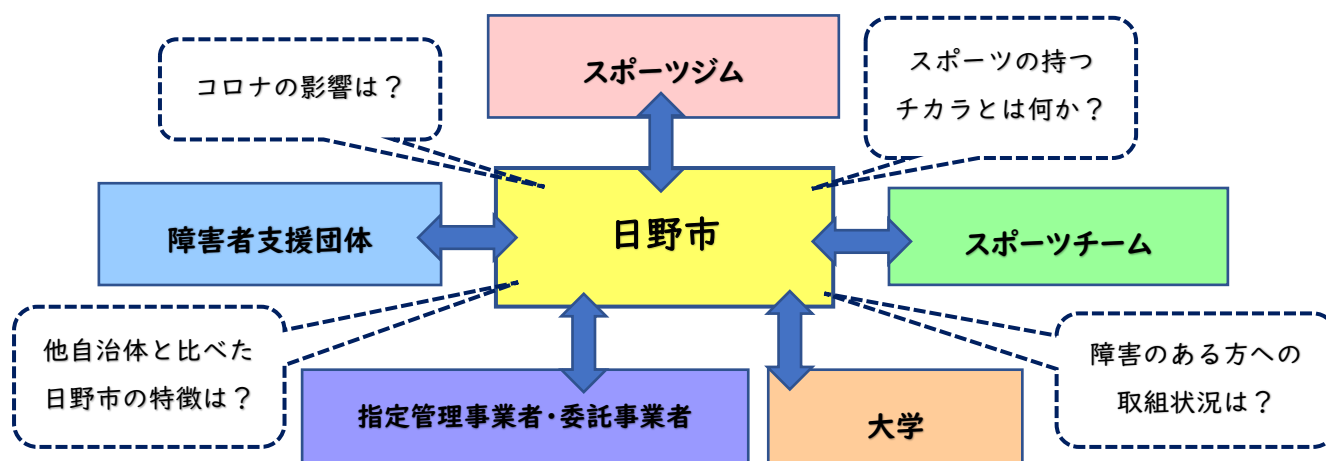


2 関連団体へのヒアリングについて

計画策定に伴い、性別・年齢・障害の有無等の多様な背景・立場等を有する方々の声を広く取り入れるため、関係団体にヒアリングを実施しました。

ヒアリングを実施した結果、本市の質問に対する各団体からの回答が多く寄せられました。いただいたご意見を、本計画を作成する上での参考とさせていただきます。

図表 24 ヒアリングの展開



(1) 調査概要について

ア 市内のスポーツ施設を管理する指定管理事業者・委託事業者

- 実施期間：令和4年7月28日～令和4年8月4日
- 対象者：市民の森ふれあいホール・市民プール指定管理事業者
南平体育館委託事業者・市内グラウンド等指定管理事業者

イ 障害者支援団体

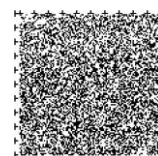
- 実施期間：令和4年7月21日～令和4年8月15日
- 対象者：日野市障害者関係団体連絡協議会

ウ スポーツチーム

- 実施日：令和4年8月17日
- 対象者：スポーツチーム団体

エ スポーツジム

- 実施期間：令和4年7月23日～令和4年8月15日
- 対象者：市内のスポーツジム



オ 大学

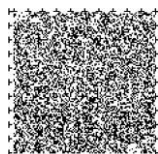
○ 実施期間：令和4年10月3日～令和4年10月14日

○ 対象者：近隣の大学

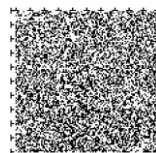
(2) 調査結果について

ア 市内のスポーツ施設を管理する指定管理事業者・委託事業者

ヒアリング項目	ヒアリング内容
新型コロナウイルスにより、貴施設が受けた影響を教えてください。	○ 施設の利用料収入が減少した。事業者の経営努力による運営の一方で、コロナ等想定外の要因については、安定した事業経営を行い、市民のスポーツ実施率の維持向上を図れるよう日野市からのサポートが必要である。 ○ 高齢者の家族が感染を心配し、高齢者の利用が減少した。家族の理解を得ながら気軽に楽しむことができるスポーツ活動を推進することが必要である。 ○ コロナ禍による団体利用のキャンセル状況を SNS、インスタグラムを活用するなど、リアルタイムで情報発信することで、空き施設による収入減を防ぐとともに、市民のスポーツ実施率の向上に向けた工夫を行うようになった。
施設運営に関する課題があれば教えてください。	○ 指定管理事業者からの視点にたった改善点や運営方法の見直しを図ることも重要であるため、定期的に日野市との協議の場を設定し、サービスの維持向上を目指していきたい。 ○ 利用者のサービスの維持と向上につなげていくため、稼働率の向上と安定した利用料収入が見込まれるよう、適切な料金と支払方法の見直しを日野市と共に検討していく必要がある。 ○ 指定管理の業務範囲を公園も含むことで、管理運営の効率化を図れる。 ○ 利用者以外の違法駐車や路上駐車など、駐車場のトラブルが多い。有料化や防犯カメラ等の設置などの対策を図っていく必要がある。
障害者または障害者団体との関りがあれば教えてください。	○ 障害のある方へ就労機会を提供している。一定の障害者雇用を促進することで、雇用の機会を提供するとともに、障害のある方が利用されることへの理解につながる。

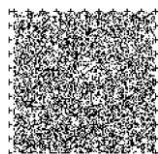


今後、障害者スポーツの推進や障害者スポーツを支える取組を行う予定があれば教えてください。	○ 障害者団体の利用もある。障害の種類や内容によって、適切にサポートできるよう、障害に係るスキルアップ研修を実施していきたい。 ○ 障害者スポーツ指導員の資格を取得することで、障害者スポーツの普及に努めたい。資格者が常駐していることを館内に掲示し、障害のある人の運動相談など、スポーツに取組やすい環境を支援する。また、障害のある人もない人も相互が安全に利用できる環境を整える。 ○ 事業参加者の確保が課題のため、ヒアリングやマーケティングを行い、事業のプログラムを設定するなど、ターゲットを絞ったうえで実施していく。 ○ 障害者スポーツを含めたイベントを開催する。
他の自治体と比べた日野市の特徴があれば教えてください。	○ 高齢者の健康づくり・スポーツ実践のきっかけづくりが活発である。 ○ 卓球、バドミントン等、体育館のメジャー競技より、だれもが楽しめ、気軽にできるミニテニス、ピククルボール、インディアカなどのニュースポーツの利用率が高い。
東京オリ・パラを通じて、何か変化はありましたか。また、今後イベント等を開催する予定はありますか。	○ ボルダリングに関する問い合わせが多くなった。
これまでの自主事業の取組について、どのように評価しているか。また評価の理由について教えてください。	○ 指定管理者の自主事業に子ども向けの内容を設定していることから、子どものスポーツ推進の一端を担っている。
自主事業の参加者やプログラムについて、日野市の特徴があれば教えてください。	○ プロスポーツチームとの共同によるイベントを実施している。 ○ プロの試合やプロの選手による教室を開催している。
総合型地域スポーツクラブとともに指定管理ができるか教えてください。	○ 総合型地域スポーツクラブとの共同事業体による実績はないが、体育協会等との共同事業体としての実績はある。
その他、ご意見等がありましたら、教えてください。	○ 市民の利用を大前提としたうえで、年間を通して稼働率の低い時間帯について、市外団体やイベント事業者等が利用を希望している際には、施設を貸出すことで利用料収入の増加を図る工夫も必要である。



イ 障害者支援団体

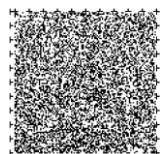
ヒアリング項目	ヒアリング内容
どのようなスポーツに、どの程度の頻度で取り組んでいますか。	○ 取り組んでいない。 ○ 多摩障害者スポーツセンターで月に1度、マット運動・バスケ・ハンドボール・大玉転がし・トランポリンなどを行っている。 ○ 7月～8月に東京都七生福祉園のプールを、4回程度利用している。
今後、貴団体において新たなスポーツの推進やスポーツを支える取組を行う予定があれば教えてください。	○ ボッチャなど、障害者スポーツに取り組み、「引きこもり」状態にある生活から社会との接触の機会を作りたい。初めての試みとして、「まずは1回やってみよう」との話し合いが進んでいる。(参加してもらうには課題もある) ○ コロナ禍によって以前は行えていた活動ができなくなり、利用者が身体を動かす機会が大幅に減ってしまった。新たにダンスの活動を取り入れ、月に1度利用者個々に合わせた動きを取り入れながらダンスやストレッチを楽しく行っている。
新型コロナウイルスにより、みなさまが受けた影響を教えてください。スポーツに関係のあるものでもないものでも構いません。	○ 以前利用していた施設が、コロナ禍により人数制限や感染症拡大防止のために利用ができなくなってしまった。2年近く行えていないので、肥満傾向のある方の体重増加や体力低下への支援をどうしていくかが課題となっている。
他の自治体と比べて日野市の特徴があれば教えてください。良い面・気になる面どちらでも結構です。	○ 他の自治体のことは分からないが、日野市はかなり積極的に取り組んでいる印象である。感謝したい。 ○ 障害のある方でも無料で利用できる施設が多いですが、体育館については、使い勝手の不便さがあります。例えば、南平体育館やふれあいホールは、多摩障害者スポーツセンターのようにボールやマット、トランポリンなどの道具の貸出があると利用しやすくなると思う。
障害者スポーツ体験教室をご存じですか。また、取り組んでいますか。	○ 知っているが、参加したことはない。 ○ そのような事業があることを知らない。
障害者スポーツ体験教室についての印象・感想があれば教えてください。	○ 近くでみたことも、やったこともないので、わからない。パラリンピックをテレビで見る程度である。



その他、日野市に対するご意見等ありましたら、教えてください。	○ 様々な理由で家に引きこもった生活をしている方々が、気軽にスポーツに参加できる雰囲気ができたら素晴らしいと思う。 ○ 市民の森スポーツ公園で駐車場を借りたい場合、ふれあいホールの受付までいかなければ減免の手続きをしてもらえないため、1対1の支援を行っているときなど移動が大変で不便を感じる。スポーツ公園の駐車場の方でも手続きができると助かる。
---------------------------------------	--

ウ スポーツチーム

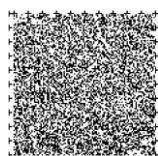
ヒアリング項目	ヒアリング内容
新型コロナウイルスにより、貴社が受けた影響を教えてください(新たな取組について含む)	○ ファンクラブ会員の減少(試合に行ったことによる特典があるため、試合がなくなると会員特典を受けられない)。 ○ 社員や顧客の感染防止対策に伴い、人的・資金的なコスト増 ○ 実施事業の縮小・中止など。現在は戻りつつあるが、サッカースクールも全て中止になった。無観客試合の実施。試合の中止や延期など。 ○ クラウドファンディングを実施。 ○ オンライン版、障害者スポーツ体験教室の実施。
新型コロナウイルスを機に、WEB 配信を活用されていたら、それについての現状や課題を教えてください。	○ 各ホームタウンでオンライン版の障害者スポーツ関連活動が増えた。 ○ コロナに関係なく外出が難しい方に対してオンライン配信は良い取組となった。障害者施設にいてもできるので会場に行く必要がなくなった。
貴社の活動で、障害者に配慮した取組があれば教えてください。	○ 障害者スポーツ体験教室(一番の人気はダンス系のプログラム)。 ○ とともに未来へ Green Heart Project。 ○ 東京ヴェルディインクルーシブスポーツフェスタなど。
子どもの体力向上や高齢者の介護予防について貴社が取り組んでいること。またはその課題について教えてください。	○ 各ホームタウンと連携したスポーツ教室、サッカー教室などを実施。 ○ 日野市では通年で実施するスクールだけでなく、単発のイベントとしてのスポーツ教室も実施できている。
施設運営に関する課題があれば教えてください。	○ 障害者スポーツ体験教室は高齢者施設の方も参加している。会場に来なくても自宅や施設で楽しめるスポーツ活動として推進していく必要がある。
未来のアスリートを育成するためにおこなっている活動はありますか？	○ サッカースクールやアカデミーチームの活動(東京、埼玉、千葉、神奈川の子どもたちが参加をしている。)



貴社のプロモーション活動について取組があれば教えてください。	○ チラシ配布・ホームページ・Instagram・Facebook・twitter・LINE・youtube など ○ 媒体ごとにターゲットや用途を分けている。 ○ 感染が拡大している時は、動画発信を多めに行った。
貴社が地域貢献活動に取り組んでいる場合、その内容について教えてください。	○ 各ホームタウンと連携したスポーツ教室、サッカー教室などを実施。 ○ 障害がある方と一緒にご参加いただくスポーツ教室も年間150日以上実施。 ○ 障害者スポーツ体験教室は、他の自治体と実施している内容はほとんど同じ。障害の種類によってやる内容を変えている。
貴社が考える「スポーツの持つチカラ」とは何ですか。	○ 誰もが一緒に楽しめることが大きな魅力。 ○ 障害のある人・ない人が一緒に楽しめるスポーツの機会を提供していく（共生社会の実現）。
今後の日野市に期待することは何ですか。	○ 価値共創ポータル¹²ご登録企業との連携を実現したい。
その他、ご意見等がありましたら、教えてください。	○ サッカースクールやアカデミーチームの活動、障害者スポーツ体験教室をより発展させていきたい。 ○ 行政×クラブ×企業で連携し、地域貢献をしていきたい。

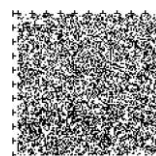
エ スポーツジム

ヒアリング項目	ヒアリング内容
新型コロナウイルスにより、貴社が受けた影響を教えてください（新たな取組について含む）。	○ 会員・利用者の減少、従業員や顧客の感染防止対策に伴う（人的・資金的）コスト増、実施事業の縮小・中止、営業日・営業時間の短縮、一時的休業。 ○ 休会者が増えた。
新型コロナウイルスを機に、WEB配信を活用されていたら、それについての現状や課題を教えてください。	○ 特に行っていない。
障害のある方に配慮した取組があれば教えてください。	○ 障害のある方でも利用しやすいよう施設を整備している。



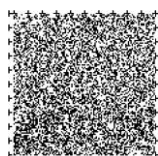
¹² 価値共創ポータル：日野市では、企業との公式的な連携窓口として「価値共創ポータル」を設置しています。連携提案の受付から各種調整、連携事業の実行までを一貫してコーディネートしていきます。

新型コロナウイルスの影響により、参加者数や教室の内容に変化があれば教えてください。	○ 前回の調査で（令和3年2月実施）、高齢者の体力維持・介護予防の取組として「介護予防教室」を行っているとは回答したが、コロナ禍になって、参加に対し、体調面で慎重になっている傾向がある。
子どもの体力向上や未来のアスリートを育成するために行っている活動があれば教えてください。	○ スイミング選手コースの設置。 ○ 選手・育成コースの設置。
貴施設の従業員に対して、運動習慣を促進させるための取組をおこなっている場合は、その内容について教えてください。	○ 従業員の施設利用促進。 ○ 取組というほどではないが、有志で営業後泳いだり、筋トレをしている。
貴施設のプロモーション活動について、取り組んでいるものを教えてください。また、その取組に対する効果を可能な範囲で教えてください。	○ チラシ配布、ホームページ、Instagram、フェイスブック。 ○ 効果測定はできていない。 ○ チラシを打った月は体験者が増加する。
貴施設が地域貢献活動に取り組んでいる場合、その内容を教えてください。また、課題があれば教えてください。	○ 地域貢献活動については、特に実施していない。
貴施設が考える「スポーツの持つチカラ」とは何か教えてください。	○ 努力したことは成果の良し悪しに関わらず、自分の財産になるということ。またそれをお互いに共感できること。 ○ 「運動を通じて、人間の生活を今より一層楽しく豊かなものにする」機会を提供しています。会員様が、きれいな水と空気の中で健康増進を図れるようあらゆる技能を駆使することが弊社の使命と考えます。「弊社を選んでよかった」と言われる企業であり続けます。
他の自治体と比べた日野市の特徴があれば教えてください。	○ 穏和な方が多く感じる。 ○ 他校と比べた場合ですが、子ども会員に比べ大人会員の比重が少ないです。

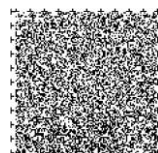


オ 大学

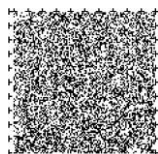
ヒアリング項目	ヒアリング内容
新型コロナウイルスにより、スポーツの分野における貴大学が受けた影響を教えてください。また、新型コロナウイルスを機に新たに組んだことがあれば教えてください。（例：体育館などの臨時閉鎖、部活動・サークルの活動自粛、オンラインでの授業など）	【コロナで受けた影響について】 ○ コロナ 1 年目は部活動・サークル活動は完全に停止とし、大学としてのガイドラインを設定し、そのガイドラインに基づき順次緩和を行っています。 ○ 大学施設は学内外の利用を一旦停止し、ガイドラインに基づき、学内利用のみ完全予約制で利用。ただし現在も学生個人の利用は不可となっています。 ○ 感染状況レベルによるクラブ活動内容の制限。（学外での活動や指導者の帯同等） ○ 新入部員の減少、および 4 月のクラブ員勧誘の制限に伴うクラブ数の減少。 【新たな取組について】 ○ 活動できなかった期間はオンラインでの活動で、自宅でのトレーニング等を行ってもらいました。 ○ 活動時間を 2 時間半(150 分)制限し、活動に伴う接触を減らすことで学内での感染拡大を食い止めることができています。 ○ コロナ禍におけるクラブ活動のガイドライン作成。 ○ 運動部員向け研修をオンラインにて実施。
貴大学の学生が、日野市の体育施設を使用して、部活動やサークル活動などを実施していることはございますか。活動をしている場合、課題や要望などはございますか。	○ 大学として、特に学外利用は把握していません。 ○ 要望として、部活動からは大学連盟の公式戦ができる野球場・グラウンドが日野市にはないので地元が試合会場にならないという話はよく耳にしています。
貴大学のスポーツ施設（体育館・プール・トレーニングルームなど）を、貴大学の学生以外に貸出を行っていれば教えてください。	○ 学外者へのスポーツ施設の貸出はコロナ以前から行っていません。 ○ 外部より施設貸し出しの依頼があれば対応している（有料）。ただし、本学の授業、クラブ活動が優先である。



貴大学のスポーツに関する課題などがあれば教えてください。(例:部活動・サークル離れ、スポーツをする機会の減少など)	○ コロナ禍を過ごした学生は世代が分断されてしまい、過去の活動状況や積み上げてきたものが一切継承されていないため、活動に対する意識が希薄になっています。そのため、部活動・サークルの廃部や休部も増えています。 ○ 大学内施設の老朽化に伴い活動できる施設が限られているため、練習環境が少ないことです。 ○ ハ王子キャンパス運動部に限れば、運動部に関する課題として挙がるのは、部員不足である。部員不足については二種類あり、一つはコロナ禍の影響を特に大きく受けた 2020 年度～2021 年度の部員減が響いている部と、もう一つはコロナ禍以前から部員の低迷が続いている部である。前者は、大学が平常化することにより回復が見込まれるものの、後者は、「部が敬遠され、サークルに流れてしまう」というものであり、部の戦績低下に直結しやすいばかりか、部員のモチベーションを下げるのが懸念される。
貴大学は、スポーツボランティアについてどのようにお考えでしょうか。また、新型コロナウイルスによる影響や現状の課題などがあれば併せて教えてください。(例:ボランティア活動を支援している、ボランティアの活動の場が減っているなど)	○ 大学における強化指定クラブにおいては、コロナ前までは清掃活動への参加や年 1 回の子ども向け教室開催などを行っていました。コロナ禍になり、集団での活動が難しいこと(感染対策が万全には出来ない)、シーズン中にボランティア活動が原因で感染者が出ることは本来のクラブ活動に支障をきたす恐れがあるため、活動は停止しています。特に清掃活動などでは、川清掃などはケガの恐れもあり、スポーツ系の部活に依頼することは躊躇されるため、子ども向けの教室などのボランティアが一番良いと考えています。 ○ 在学生主体で大学のスポーツを盛り上げていく、大学独自の組織が発足した。スポーツを「する」在学生だけではなく、「観る」「支える」ことに関心がある学生が集まり、主体的に大学のスポーツの活動を企画し、実践していく。また、大学としても、今後スポーツボランティアに前向きに取り組んでいくこととしており、現在検討中の運動部評価においても、ボランティア活動を評価指標の一つとすることを考えている。
貴大学が、日野市とともに地域貢献(地域の課題解決など)を進める場合、どのようなことが考えられるでしょうか。	○ 急な依頼に対応することはかなり難しいため、日野市が抱えている課題などについて、該当する教員・授業などでじっくり検討できる時間設定が必要と考えます。授業で学生の意見や発想により、課題解決を検討されるのであればカリキュラムが固まる前に大学への情報提供があるともっとスムーズに進められるのではないかと考えています。 ○ 現段階で具体的な構想はないが、今後、例えば中学校部活動について市から協力依頼があれば、本学が対応可能な範囲での協力を検討したい。



貴大学は、「スポーツの持つチカラ」をどのように捉えていますか。	○ 健康と密接に関係するものと捉え、「健康・スポーツ科学論」といった授業科目を設置しています。 ○ 「スポーツの力」には、さまざまな効用が認められる。例えば、大学スポーツの振興は、学生の精神的・肉体的成長にとどまらず、大学関係者の帰属意識や愛校心の醸成等の効用が認められると考える。また、2022年4月に創設した大学内のスポーツ局では、本学のスポーツ資源を最大限に活用し、本学スポーツの振興及び学術研究・教育を発展させることで、広くスポーツを社会の発展に寄与することを目指している。
今後の日野市に期待することを教えてください。（例：市と協働して大きなスポーツイベントを実施したいなど）	○ 気軽に利用でき、なおかつ利用料がリーズナブルな体育施設があれば、体育会に所属していない団体にも利用してもらい、スポーツを通じて、日野市との関わりを一層持つことができると期待しています。 ○ 本学も、今後大小様々なスポーツイベントを企画・実施することとしているが、その際の広報等でご協力いただけると大変ありがたい。
その他、ご意見等ありましたら、教えてください。	○ お互いに連絡窓口を決めるなど、連絡関係が今後持続的に発展していくことを希望する。



3 スポーツ環境について

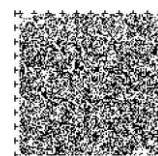
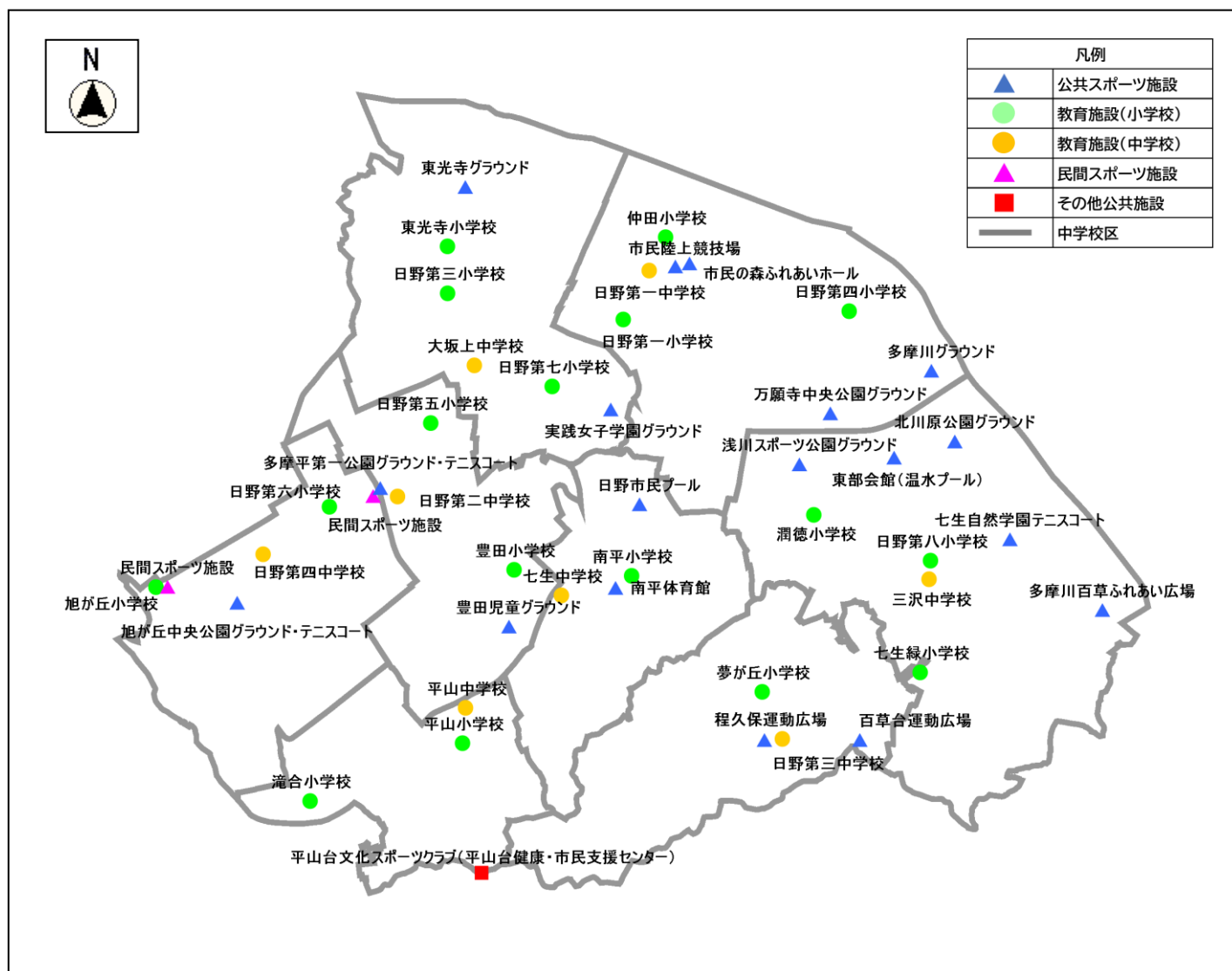
(1) スポーツをする場所について

日野市には、現在 1 ヶ所の陸上競技場、2 ヶ所の屋内体育施設、9 ヶ所のグラウンド、3 ヶ所のテニスコート、2 ヶ所のプールがあります。

また、市内の小・中学校では、市民のスポーツ活動の場の提供を目的として、体育施設の開放が実施されています。

今後も、市民の方々が安全に、楽しくスポーツができるようスポーツ環境を整備していく必要があります。

図表 25 日野市内の体育施設分布状況



①公共体育施設

市内の公共体育施設は、昭和 62 年に市民陸上競技場、昭和 63 年に生活・保健センター（温水プール¹³）、平成元年に東部会館（温水プール）が開設されました。その後、平成 5 年に市民プールがリニューアルオープンし、平成23年にスポーツを始めとした多目的利用が可能な市民の森ふれあいホールが開設されました。

そして、令和 4 年には「スポーツと健康」・「交流」・「防災」を基本的な 3 要素として捉え、地域全体に活気と潤いを生み出す「まちなかアリーナ」として活用を図る南平体育館がリニューアルオープンしました。

その他の公共体育施設として、9 ヶ所のグラウンドと3ヶ所のテニスコートがあります。これらの公共体育施設の整備は、市民のニーズに対して十分とは言えない状況にあります。特に、野球場や公認競技場など本格的な競技スポーツ会場はなく、河川敷や都市公園内などを一部利用した施設となっています。

しかし、平成 25 年の国民体育大会開催を契機に、新たなスポーツ活動の拠点として、市民の森ふれあいホールが建設されたことに加え、バドミントンや卓球などの競技に配慮した空調設備を完備したアリーナを有し、ユニバーサルデザインを各所に取り入れ、誰もが利用しやすい南平体育館など、市内の施設整備はここ数年で大きく進行了しました。

また、市民の森ふれあいホールにおいては、指定管理者による自主事業により、多世代向けの運動教室が多数開催され、南平体育館では最新鋭のトレーニングマシンが導入されたトレーニングルームなどが多くの市民に利用されており、市民のスポーツ活動のきっかけづくりは大きく進展していると言えます。市民のスポーツ活動が活発化し、新たなスポーツのサークル・団体が増加している一方で、活動拠点となる屋内外の公共体育施設の老朽化が進行しており、施設の適切な改修、新たな活動拠点の創出が求められています。



エントランス



「令和 4 年 4 月より南平体育館がリニューアル」



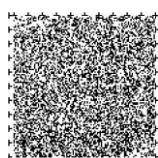
メインアリーナ



ボルダリング



弓道場



¹³ 「生活・保健センターの温水プール」について

昭和 63 年に開設しましたが、機械設備故障により平成 21 年 10 月から使用が休止となりました。

その間、活用についての検討が行われた結果、温水プールは廃止となり、新たな健康増進施設として生まれ変わりました。

①-1 公共体育施設の利用者数の推移

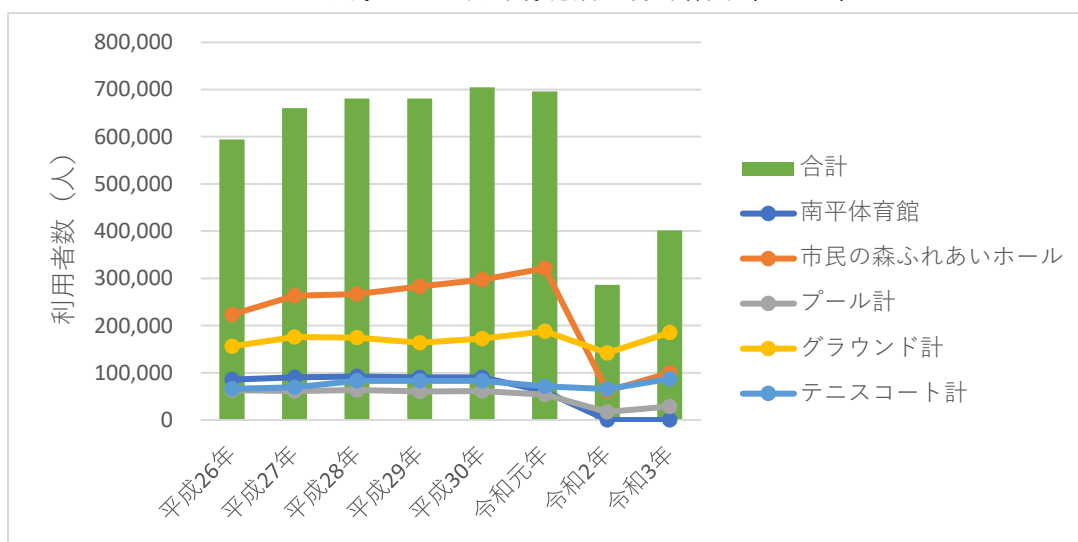
平成 26 年から令和 3 年までの各施設の年間利用者数は、令和元年までは増減に大きな変化はありませんが、コロナの影響により、施設の利用制限や外出規制などがあったため、令和 2 年は大きく減少しています。しかし、令和 3 年は利用者数が少しずつ増加しています。

図表 26 公共体育施設の利用者数（表）

単位：人

施設名	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
南平体育館	85,857	90,540	92,253	90,647	90,277	60,565	0	0
市民の森ふれあいホール	223,052	263,069	266,660	283,223	297,559	321,617	61,689	99,673
プール計	63,175	61,553	63,693	60,571	61,352	53,935	17,250	28,621
グラウンド計	156,119	175,872	174,857	163,638	172,187	187,980	142,076	185,730
テニスコート計	65,987	69,545	83,294	83,120	83,163	71,629	65,632	87,405
合計	594,190	660,579	680,757	681,199	704,538	695,726	286,647	401,429

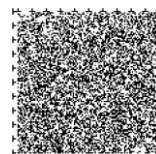
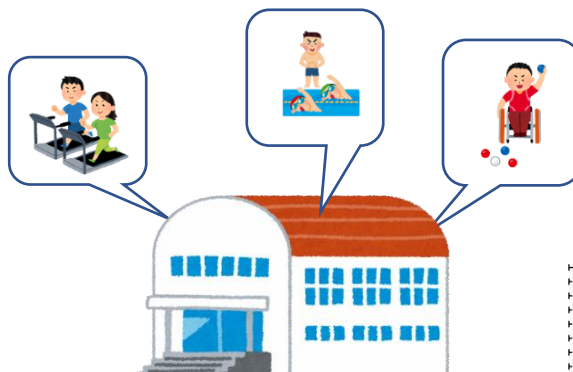
図表 27 公共体育施設の利用者数（グラフ）



<図表 26 の数値について>

※「南平体育館」については、令和 2 年・令和 3 年でリニューアル工事をしていたため利用ができませんでした。そのため利用者数は 0 人となっています。

※プールについては、「市民プール」と「東部会館のプール」の利用者数の合計を記載していますが、「市民プール」については令和 2 年・令和 3 年の間、コロナの影響により閉鎖していたため、東部会館のプールの利用者数のみ記載しています。



②教育施設

市内小・中学校の体育施設（校庭、体育館、テニスコート）は、市民に対するスポーツの場の提供を目的に、学校教育活動外の時間帯において開放されています。

各学校体育施設ともに利用率は高く、効率的に利用されていますが、小学校では各学区内の団体へ開放しているため、学校により利用団体数に多少の差があります。

今後は、開放利用の利便性を高めるため、貸し出し方式の見直しなどを検討します。

図表 28 小学校の施設利用者数

年度	校庭		体育館	
	学校数(校)	利用者数(人)	学校数(校)	利用者数(人)
平成 30 年	17	97,947	17	95,846
令和元年	17	86,199	17	83,072
令和 2 年	17	52,359	17	28,718
令和 3 年	17	96,282	17	66,079

図表 29 中学校の施設利用者数

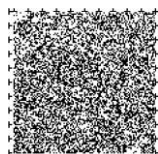
年度	校庭		体育館		テニスコート		ナイター	
	学校数(校)	利用者数(人)	学校数(校)	利用者数(人)	学校数(校)	利用者数(人)	学校数(校)	利用者数(人)
平成 30 年	8	2,166	8	28,025	6	3,935	5	13,947
令和元年	8	817	8	25,788	6	5,101	5	15,150
令和 2 年	8	85	8	3,664	6	895	5	9,746
令和 3 年	8	452	8	10,648	6	3,058	5	16,833

<図表 28 の数値について>

小学校の施設利用者数について、廃校となった小学校を暫定的に開放している、平山台健康・市民支援センター、百草台コミュニティセンター、教育センターの3ヶ所の利用者数は含めておりません。

③企業、学校法人、民間スポーツ施設

市内には民間スポーツ施設などが点在していますが、近年は、経済不況や宅地開発の影響で、民間の運動施設が減少してきています。それでも、競技スポーツや市民のスポーツ活動の場の拡大を図るためには、市内の企業、学校法人等に対し、スポーツ施設の開放を求めていく必要があります。



④総合型地域スポーツクラブ

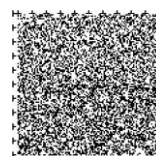
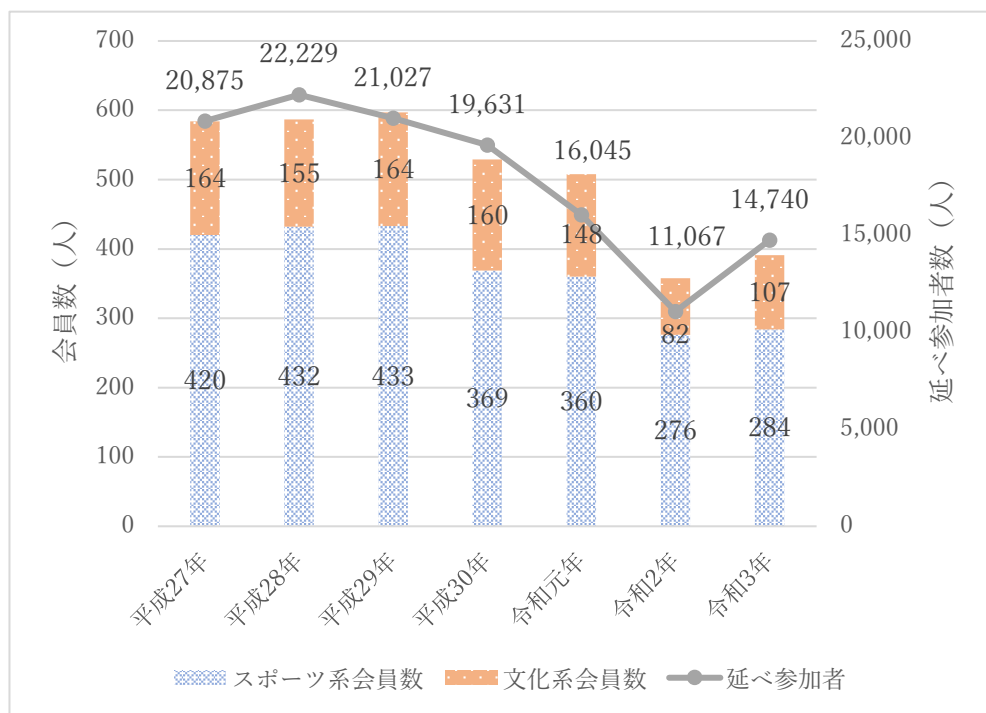
本市の総合型地域スポーツクラブである平山台文化スポーツクラブは、平山台健康・市民支援センターを拠点として、文化・スポーツ活動を行っています。設立以降、会員数及び活動への延べ参加者数は増加し、平成29年3月に一般社団法人化され、スポーツや文化活動の拠点として、地域に根付いて参りました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、クラブを一定の期間、閉鎖しなければならない状況となりました。結果、会員数が減少し事業収入を補填金で賄うなど、創意工夫が求められました。徐々にではありますが、会員数も戻りつつあり、地域のスポーツ活動拠点として、幅広い情報の提供、周知活動を、引き続き展開していくことが求められます。

なお、旧耐震基準である平山台健康・市民支援センターの建物は、躯体、設備ともに、かなりの老朽化が進んでおり、大規模改修、耐震化し、使い続けることは、現実的ではないと判断し「日野市財政再建計画・第6次行財政改革大綱実施計画」では、耐震補強は不実施となっています。

利用者ニーズや必要面積など、機能分析を行い、既存の公共施設、民間サービスへの移行などを軸に、入居団体、利用者、地域の皆様と一緒に代替可能性、多機能集約化などの検討を進めていく必要があります。

図表 30 平山台文化スポーツクラブの会員数及び参加者数の推移



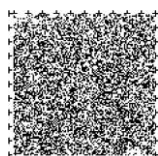
⑤道路・公園

道路や公園も、ウォーキングやジョギングなど屋外でのスポーツ活動を支える重要な施設です。

また、コロナの影響もあり、身近でスポーツや運動ができる場所の需要が高まっています。

平成 30 年 1 月には「日野市ウォーキングマップ」を発行し、現在市内には、新選組ゆかりの地や、多摩川沿いの景観などを楽しめるウォーキングコースが 14 種類設定されています。

図表 31 市内のウォーキングコース図



(2) 日野市のスポーツを支える団体や人たちについて

日野市のスポーツを推進していくためには、行政だけではなく、各分野の方たちの協力が必要です。ここでは、どのような方たちに協力をさせていただいているか、どんなことをさせていただいているのかを紹介します。

①スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法第 32 条に定められ、市から委嘱された非常勤の公務員です。本市は、市内におけるスポーツ推進に係る体制の整備を図るため、社会的信望があり、スポーツに関する関心と理解を有し、職務を行うのに必要な熱意と能力を有する市民の方を委員として委嘱しています。

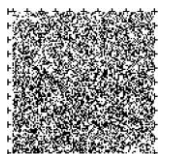
主な活動は、スポーツイベント等の開催や指導者派遣などを行っており、ユニバーサルスポーツイベントなど障害者スポーツの普及や啓発にも力を入れています。



②日野市体育協会

日野市体育協会は、昭和 25 年に誕生し、現在 31 の競技団体で構成されており、約 12,000 人の会員を有する任意団体です。

主な事業として、日野市民体育大会の実施を始め、都民体育大会、市町村総合体育大会へ選手を派遣するなど、地域のスポーツ振興に寄与しています。



③平山台文化スポーツクラブ

平山台文化スポーツクラブは、平山台健康・市民支援センターを活動拠点として、豊かな地域づくりに貢献することを目的に自主運営していくクラブです。

子どもからシニアの方まで、少額の会費で様々なプログラムに参加できます。

★スポーツ系プログラム:スポーツ吹き矢、ビーチボール、グラウンド・ゴルフ、ハンドロウルなど

★文化系プログラム:絵画教室、男の料理教室、コーラス、書道教室など



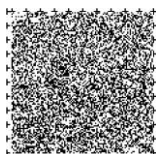
④スポーツボランティア

日野市のイベントなどを実施するために、市内の中学校の生徒などに声掛けをしてボランティア活動に参加していただいています。例えば、日野市スポーツ・レクリエーションフェスティバルでは、キャラクターの着ぐるみに入って子どもたちと触れ合うことや、各ブースのお手伝いなどをお願いしています。また、スポーツボランティア養成講座なども開催しており、スポーツを支える人の育成を行っています。



⑤健康体操サポーター

健康体操サポーターは、健康体操を広く普及することで、市民の方々の体力増進・健康づくり・地域コミュニティ形成を支援する市民ボランティアです。健康課で実施する健康体操サポーター養成講座を受講し、日野市独自の認定試験に合格した方々が、「楽・楽トレーニング体操」をはじめとした、市民の方々への体操指導を行っています。



4 スポーツによる街の賑わいの創出について

(1) 日野市を拠点に活躍するトップスポーツチーム

本計画で扱う「トップスポーツチーム」とは、企業組織に所属するスポーツチームや J リーグ（日本プロサッカーリーグ）などに属するプロスポーツチームを指しています。

現在、日野レッドドルフィンズやコニカミノルタ陸上競技部をはじめとする、多くのトップスポーツチームが日野市を拠点に活動しており、スポーツを「観る」ことの魅力を発信したり、地域貢献活動などを行っています。ここではそれぞれの活動の一部を紹介します。



日野レッドドルフィンズ（ラグビー）

「日野レッドドルフィンズ」は、毎年「日野市民 DAY」を開催し、市民をスタジアムに招待しており、イベントを通じてラグビーの普及にも努めています。

また、令和 3 年 12 月 3 日に日野市と連携協定を締結し、スポーツの普及だけでなく、教育・福祉など様々な分野で日野市と連携を行っています。

「コニカミノルタ陸上競技部」は、実業団駅伝の最高峰である「ニューイヤー駅伝」に出場したり、8度の優勝を成し遂げたり、個々の選手が大会で活躍するなど、好成績を残しています。

また、市内の小・中学生を対象に、陸上競技部の選手が講師となり、ジョギング教室を開催したりと、子どもたちへ走ることの楽しさを伝えています。



コニカミノルタ陸上競技部（陸上）

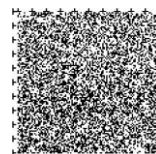


東京ヴェルディ（サッカー）

「東京ヴェルディ」は、平成 17 年度より日野市をホームタウンの 1 つとして活動しており、「日野市民観戦デー」だけでなく、様々な試合に市民をスタジアムへ招待しています。

また、市民を対象とした障害者スポーツ体験教室を実施し、障害者スポーツの普及にも力を入れています。

トップスポーツチームへの応援よろしくお願いします！



(2) 日野市ゆかりのアスリート選手

日野市では、オリンピック競技大会、パラリンピック競技大会その他国際的なスポーツ大会の競技種目に選手として出場し、オリンピック競技大会等において優秀な成績を収め、市民に感動を与えた方に対して、「日野市民スポーツ栄誉賞」を贈呈しています。

今回は、その日野市民スポーツ栄誉賞を贈呈した日野市ゆかりのアスリート選手 2 名を紹介します。

「山崎悠麻選手」



バドミントン

日野市在住の山崎悠麻（やまざき ゆま）選手は、小学2年生からバドミントンを始めました。

これまで数多くの大会で好成績を残してこられ、東京 2020 パラリンピック競技大会に出場した際には、女子ダブルスで「金メダル」を、女子シングルスで「銅メダル」を獲得されました。

日野市では、その栄誉を称え、山崎選手へ「日野市民スポーツ栄誉賞」を贈呈しました。（令和 3 年 10 月 8 日）

今後も、日野市として山崎選手の活動を応援していきます！

ゴルフ

日野市の小・中学校出身の馬場咲希（ばば さき）選手は、幼稚園（5 歳）からゴルフを始めました。

令和 4 年度に全米女子オープンゴルフ選手権に出場し、日本のアマチュア選手として 8 年ぶりに決勝進出をされました。

また、同年の全米女子アマチュアゴルフ選手権では、日本の選手として、37 年ぶり、2 人目の優勝を果たしました。

日野市では、その栄誉を称え、馬場選手へ「日野市民スポーツ栄誉賞」を贈呈しました。（令和 4 年 9 月 7 日）

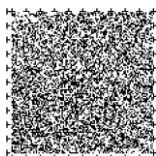
今後も、日野市として馬場選手の活動を応援していきます！

「馬場咲希選手」



山崎悠麻選手・馬場咲希選手への

温かいご声援よろしくをお願いします！



5 日野市のスポーツにおける「課題」について

以上の日野市のスポーツ環境の現況を踏まえて、今後重点的に取り組んでいくべきと考える課題は以下のとおりです。

■「する」スポーツの課題

- ・身近で気軽にできるスポーツ環境の支援や整備
- ・子どもや子育て世代など、スポーツを楽しむ好きになる機会の創出
- ・市内老朽施設の改善・整備、スポーツ施設の在り方の検討など

コロナ禍においては、ウォーキングやジョギング、体操やダンスなどは需要が増加し、結果、スポーツ実施率を向上させ、市民の健康や体力の維持向上を担ってきました。引き続き、より身近で気軽に取り組むことのできるスポーツを支援していくことが求められています。

また、障害の有無に関わらず、スポーツを楽しめる機会を創出するため、障害者スポーツの普及に努め、社会的課題である共生社会の実現を目指す必要があります。

そして、体育施設の老朽化が進んでおり、新たな補助金の活用による施設整備の推進や日野市公共施設等総合管理計画に基づくスポーツ施設の在り方の検討、更には不足する野球場の整備にも取り組んでいく必要があります。

■「観る」スポーツの課題

- ・「観る」ことでスポーツを好きになってもらう機会の創出
- ・スポーツで活躍する市民を応援する機会の創出
- ・市内のトップスポーツチームとの連携と共創

より多くの市民がスポーツを「観て」楽しみ、好きになってもらうきっかけを創出するため、市民がどのスポーツを観戦することに興味があるのかを見極め、積極的に情報を発信していくことが重要です。

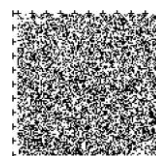
また、トップレベルの競技スポーツを直に観戦する機会づくりや、トップスポーツチームの選手との交流にも取り組んでいく必要があります。

■「支える」スポーツの課題

- ・スポーツボランティアや競技スポーツ指導者の育成
- ・活動団体や支援団体との連携の推進
- ・市民がスポーツに関する情報を容易に得られるための情報提供の整備

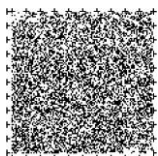
スポーツは人々による様々な取組により支えられています。まずは、スポーツボランティア等の情報を分かりやすく情報発信し、興味をもってもらうことが求められています。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を経て、障害の有無や国籍等に関わらず市民が多様性を尊重する街を、スポーツを通じて目指すことが求められています。



第 3 章

スポーツ推進の基本施策について



1 基本理念

コロナの影響により、私たちの生活様式は変化を遂げています。また、それによりスポーツの在り方も見直され、改めてスポーツの価値が見出されました。

いつ、何が起きるかわからない社会情勢ではありますが、どんな状況であっても、スポーツが市民一人一人にとって「人生の大きな柱」であって欲しいと願っています。

その想いを実現するためには、市民がスポーツを「する」「観る」「支える」活動に積極的に取り組める環境や機会を創出していくことが重要だと考えます。

以上のことから、第2次日野市スポーツ推進計画の目指すべき姿を「誰でもスポーツに取り組みやすいまち」と設定します。



誰でもスポーツに取り組みやすいまち



2 計画目標

本計画では、以下の目標を設定し、その目標を達成するための施策を推進します。

なお、本目標は、国や東京都の計画を踏まえながら、スポーツ振興を強く推進するために高い目標値として掲げるものです。

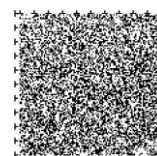
目標名	概要	現在値	目標値
目標1 成人の週1回のスポーツ実施率	週1回以上のスポーツ実施率が、東京都の掲げる世界トップレベルの70%となることを目指します。	58.4% (令和2年3月時点)	70%
目標2 成人の週複数回のスポーツ実施率	スポーツ実施率の更なる向上を目指して、目標1のうち、週に複数回の実施率が80%となることを目指します。	目標1のうち 72.2% (令和2年3月時点)	目標1のうち 80%
目標3 市内体育施設の年間利用者数の増加	市内体育施設 ¹⁴ の更なる時間的・空間的活用を図り、利用者数の増加を目指します。	約95万人 (令和元年度時点)	約100万人
目標4 市内で実施されるスポーツ事業への参加者数の増加	市主催の市民ニーズに沿ったスポーツ事業を積極的に実施し、参加者数4万人の増加を目指します。	約9万人 (令和元年度時点)	約13万人

※目標中の「スポーツ」とは「する」スポーツを意味します。

※目標1・2について：現在値は、「令和2年に実施したアンケート結果」に基づき算出しています。

※目標3・4について：本来であれば、最新の実績値である令和3年度の数値を現在値とすべきですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少したため、各目標において算出されているコロナの影響のない「最新の年度（令和元年度）の値」を現在値としています。

¹⁴ 市内体育施設：この「市内体育施設」には、学校体育施設（小・中学校）を含む。



3 スポーツ推進の基本方針

本計画では、4つの計画目標を実現するため「する」「観る」「支える」全てのスポーツに関する具体的な取組の柱となる基本方針を以下の通りに定めます。

「スポーツ推進の基本方針」

基本方針1

スポーツの機会・場所の創出

身近で取り組めるスポーツの需要が高まっているという現状を踏まえて、市民誰もがそれぞれのライフスタイルにあったスポーツ活動を行えるよう環境を整備していきます。

また、スポーツを「する」という視点だけでなく、「観る」「支える」という視点からもスポーツを楽しむような機会を創出していきます。

基本方針2

障害者スポーツの普及

障害の有無に関わらず、市民誰もがスポーツに参画できる環境を整備するとともに、障害者スポーツへの関心を高め、その裾野を広げていくための取組を行っていきます。

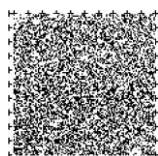
また、障害者スポーツを「する」「観る」「支える」を通じて、障害への理解も深めていけるようなイベントを企画し、共生社会の実現を目指していきます。

基本方針3

スポーツのまち日野をめざして

「スポーツのまち日野」を実現するには、行政機関だけでなく、市内のスポーツ関連団体、市内及び近隣の教育機関、民間企業など様々な分野の方々と連携を図りながら事業を進めていく必要があります。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会によって高まったスポーツの機運を継承しながら、スポーツを通して市民誰もが日野の魅力や活力を感じられるようなまちを目指します。

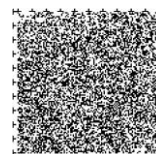
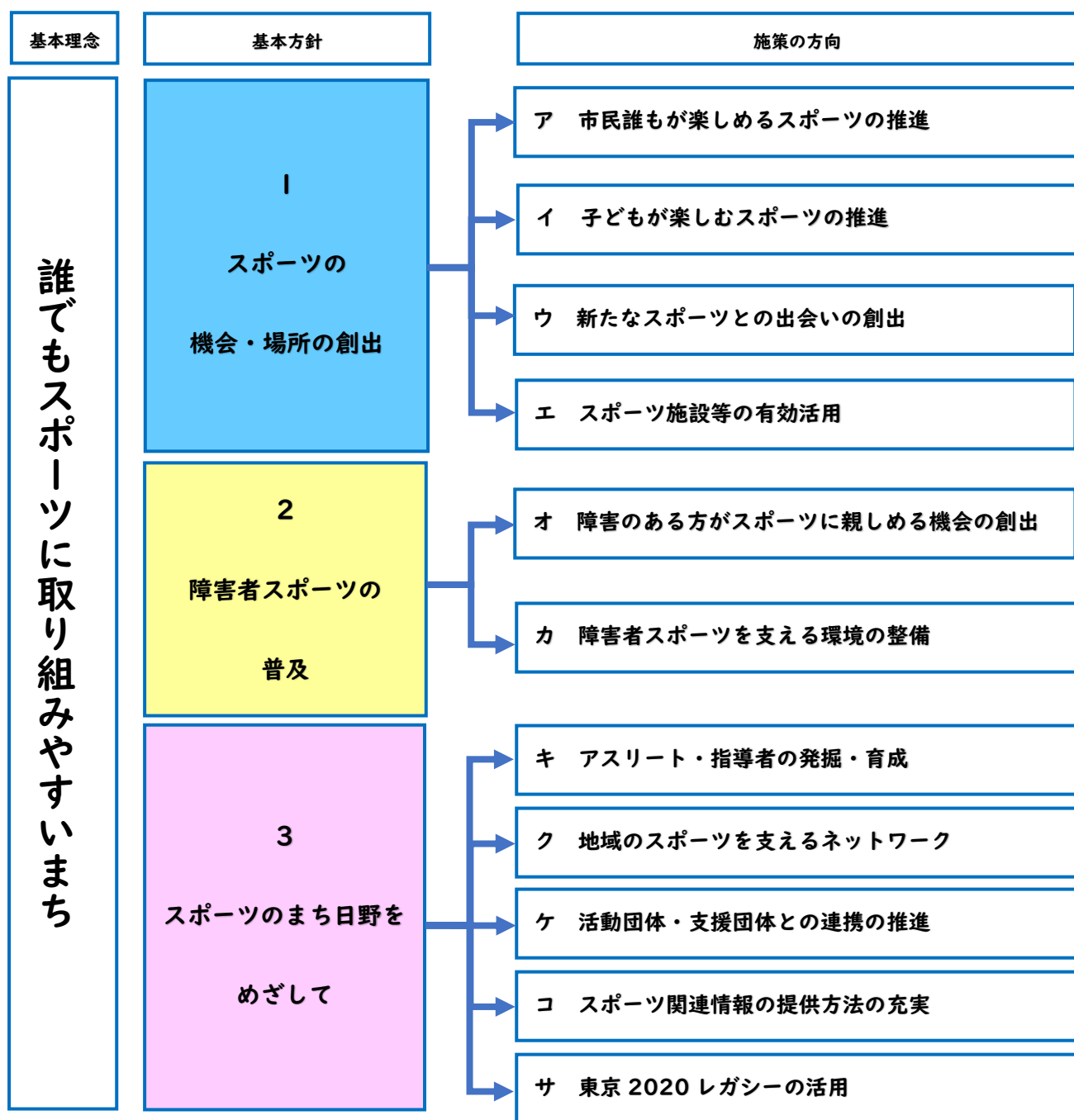


4 スポーツ推進施策の体系

(1) 施策の体系図について

前項で示した3つの基本方針ごとにそれぞれ施策の方向を定め、その下に具体的施策（※第4章に内容掲載）が紐づいています。それぞれの課題解決・目標実現に向け、今後事業を展開していきます。

図表 32 第2次日野市スポーツ推進計画施策体系図



(2) 施策の方向について

前項で示した 11 個の施策の方向については、下記のとおり進めていきます。

1、スポーツの機会・場所の創出

ア 市民誰もが楽しめるスポーツの推進

子どもから高齢者、障害の有無などに関わらず全ての方が、楽しみながら身近で気軽に取り組むことのできるスポーツを推進するための施策を推進していきます。

イ 子どもが楽しむスポーツの推進

子どもの頃からスポーツを楽しみ、好きになってもらう取組を、教育委員会や子育て関連機関と連携しながら取り組んでいきます。

ウ 新たなスポーツとの出会いの創出

アーバンスポーツの場所の検討、ニュースポーツの普及、スポーツDXの活用に向けた施策を推進していきます。

エ スポーツ施設等の有効活用

既存施設の改修や有効活用、日野市公共施設等総合管理計画に基づく施設の在り方の検討、また不足する施設を整備するための施策を推進していきます。

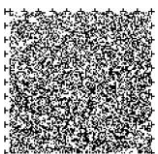
2、障害者スポーツの普及

オ 障害のある方がスポーツに親しめる機会の創出

リニューアル後の南平体育館をモデルとし、誰もが利用しやすい施設を目指すとともに、障害のある方がスポーツに取り組むための施策を推進していきます。

カ 障害者スポーツを支える環境の整備

障害者スポーツを「する」「観る」「支える」を通じて、障害への理解も深めていけるようなイベントを企画し、共生社会の実現を目指していきます。



3、スポーツのまち日野をめざして

キ アスリート・指導者の発掘・育成

競技スポーツ経験者などから優れた指導者の発掘や、スポーツ指導者に必要な専門的知識を習得する機会を提供していきます。

ク 地域のスポーツを支えるネットワーク

大きなスポーツの大会を成功させるためのスタッフや、日々の生活の中で人々が行うスポーツを支える地域の指導者を育成するための施策を推進していきます。

ケ 活動団体・支援団体との連携の推進

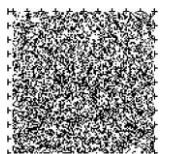
行政機関だけでなく、市内のスポーツ関連団体、市内及び近隣の教育機関、民間企業など様々な分野の方々と連携を図りながら事業を進めていきます。

コ スポーツ関連情報の提供方法の充実

日野市ゆかりの活躍する選手を応援する機運を醸成するとともに、市民が求める健康やスポーツの情報を、市の様々な広報媒体を活用していきます。

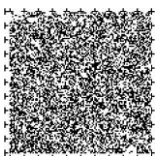
サ 東京 2020 レガシーの活用

大会によって高まったスポーツへの機運を継承しながら、スポーツを通して市民誰もが日野の魅力や活力を感じられるようなまちを目指していきます。



第 4 章

スポーツ推進施策の具体的展開



スポーツ基本法の前文において、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」と示されています。より多くの人々がスポーツの楽しさや感動を分かち合うような「スポーツ文化」の成熟に向けて、市民が自発的にスポーツをできる機会を創出したり、スポーツをする「場」や「環境」を整えることが重要です。

子どもから親世代、高齢者まで、市民誰もが楽しめるスポーツを推進するため、身近で気軽にできるスポーツの機会を提供して参ります。

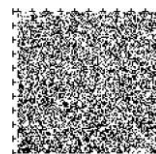
また、生涯に渡り運動やスポーツを自発的に行い、健康で心豊かな生活が送れるよう、子どものうちからスポーツを楽しみ、好きになってもらう取組を、教育委員会などと連携しながら取り組んでいきます。

さらに、本市では、スポーツ活動の場、環境の向上を目指し、安全で快適な公共体育施設の整備及び施設の利活用を促進していくことに加えて、市民が身近な場所で健康増進に取り組めるよう、既存の公共体育施設のみならず、道路や公園、河川、その他の公共施設など、まち全体を運動できる環境となるよう整備して参ります。

スポーツ基盤の整備・充実施策としては、グラウンド、テニスコート等、スポーツ拠点機能の中核を担う公共体育施設について、老朽化やコンディション不良を解消するため、改修・整備に取り組むとともに、不足する野球場の設置や屋外体育施設等への夜間照明設備の整備について検討して参ります。

一方、厳しい財政状況が続く中で、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえ、長期的な視点をもって、更新・長寿命化等を計画的に行い、財政負担を軽減・平準化し、公共施設等の最適な配置を実現することが必要となっていることから、日野市公共施設等総合管理計画に基づき、スポーツ施設の在り方を検討して参ります。

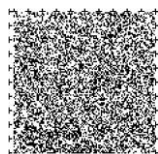
また、上記の公共体育施設に加え、教育委員会との連携により、地域のスポーツ拠点として、小・中学校体育施設の有効利用、利便性・快適性の向上を図っていきます。



ア 市民誰もが楽しめるスポーツの推進

具体的施策		概要	推進担当
1	公園、緑地、水路の整備	誰もが安全・安心かつ快適、健康的に利用可能な施設として、散策コース、トイレ、インクルーシブ遊具 ¹⁵ 、健康遊具、花壇、親水路などの整備を推進する。 また、「水辺のある風景 日野 50 選」を巡るウォーキングツアーも継続して積極的に PR する。	緑と清流課
2	「新選組ゆかりの地」の情報提供	市の歴史的資産である新選組のゆかりの地を巡るウォーキング等で健康増進を図るきっかけとなるよう、市内外の新選組ゆかりの情報を提供する。	ふるさと文化財課
3	庁内各課との連携によるウォーキング事業の拡大	ウォーキング事業を実施する庁内各課と連携し、相互の情報提供を行い、ウォーキング事業を推進する。	文化スポーツ課
4	全市民対象のスポーツイベントの開催	スポーツの日には、子どもから大人まで楽しめる「スポーツ・レクリエーションフェスティバル」を開催する。 南平体育館では、年に一度幅広く市民に開放するイベントを検討する。 また、市主催以外のイベントについても検討する。	文化スポーツ課
5	地域におけるラジオ体操の推奨	地域に根付いたラジオ体操団体との連携や他団体のラジオ体操のイベントなどを検討する。	文化スポーツ課
6	ちょっとウォーキングの実施	日野市ウォーキングマップをもとにしたコースなど、市内の様々な場所で実施し、日頃運動習慣のない参加者獲得に向けた事業を実施する。	文化スポーツ課
7	地域派遣活動の実施	地域団体からの依頼を受け、ニュースポーツなどの指導や普及を行う。	文化スポーツ課
8	働き世代や子育て世代に対するスポーツ実施の促進	コロナの影響により、テレワークが増えた働き世代や、子育て世代の運動不足を解消するため、通勤時間や休憩時間等を活用した運動の機会を創出する。	文化スポーツ課
9	子育て世代への環境づくり	南平体育館のキッズコーナーやアスレチックルームなどの利用を通じて、子育て世代が安心してスポーツを楽しめる環境づくりを推進する。	文化スポーツ課
10	老人クラブとの連携による健康づくりの推進	日野市老人クラブ連合会の活動を支援し、世代を問わずに楽しめる気軽なスポーツ教室・イベントなどを企画して、高齢者の「健康維持・健康づくり」に関する取組を展開する。	高齢福祉課

¹⁵ インクルーシブ遊具：体に障害がある子ども、ない子ども一緒になって遊ぶことができる遊具を指す。



新規

11	さわやか健康体操等の充実	市民が身近な場所で体操に参加し、自立した運動習慣のきっかけができるよう、さわやか健康体操や楽・楽トレーニング体操の充実を図る。 また、市内で活動する自主グループ（市民グループ）へ健康体操サポーター ¹⁶ の派遣を積極的に実施する。	健康課
12	セカンドライフを充実させるスポーツ体験教室の実施	高齢者世代に対するスポーツ実施の促進として、市内体育施設の利用や、スポーツ体験教室・イベントへの参加を促す。	文化スポーツ課
13	高齢者のフレイル予防の推進	高齢者が要介護状態になるのを予防するために、フレイル ¹⁷ 予防の普及や地域での介護予防のための活動を広める。	高齢福祉課

コラム 6

スポーツ庁の「FUN+WALK PROJECT」をご存じですか？

スポーツ庁では、ビジネスパーソンへのスポーツ参画人口拡大を通じて、国民の健康増進を図る官民連携プロジェクト「FUN+WALK PROJECT」に取り組んでいます。

このプロジェクトは、「まいにちに「歩く」を足して、ハッピーになろう。」というタイトルを掲げています。

例えば、通勤やオフィスワークに「歩く」を足して仕事の効率を上げてみたり、そのためには歩きやすい靴や服装で通勤をする日を作ったり、ランチやアフター5にいつもより遠くの店に行きたくなる仕組みを作ったりなど、みんなが好きな楽しいことと「歩く」をどんどんつなげることで、歩くことをもっと楽しく、楽しいことをもっと健康的なものに変えていくことができます。

仕事が忙しくてスポーツをする時間の取れない働き盛り世代に対して、運動不足にならないようスポーツ機会を創出していくことはとても大切なことです。

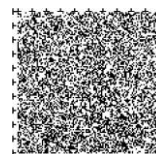
誰でも気軽に始められる「歩く」という運動に、皆さんの「楽しい」をプラスして、すきま時間を見つけて一緒に歩いてみませんか？

※参考文献：スポーツ庁ホームページ「FUN+WALK PROJECT」から引用



¹⁶ 健康体操サポーター：健康課で実施する健康体操サポーター養成講座を修了し、日野市独自の健康体操トレーナー認定試験に合格した市民を指す。

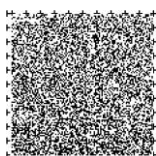
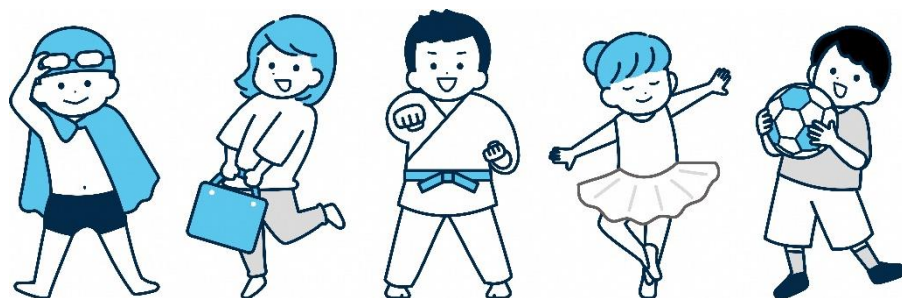
¹⁷ フレイル：加齢とともに心身の活力が低下し、要介護状態になる危険性が高くなった状態を指す。



イ 子どもが楽しむスポーツの推進

	具体的施策	概要	推進担当
14	子育て関連部署・施設との連携	子育て関連機関を通して、親子で楽しめるスポーツ施策を促進する。	文化スポーツ課
15	様々なスポーツの紹介	子どもたちが身体を動かす楽しさを感じられるニュースポーツなどの体験会を実施する。	文化スポーツ課
16	外部講師などの招致	市内の企業などや大学のスポーツ選手などとの交流を通じて、子どもたちにスポーツや運動の魅力を発信する。	学校課
17	遊びを通じた運動習慣づくり	休み時間など日々の学校生活において、遊びの中から運動好きな子どもを増やしていく。	学校課
18	児童館を活用したスポーツ・レクリエーション活動の充実	児童館にある遊戯室（ホールなど）を活用し、バドミントン・卓球・バスケットボール・ドッジボールなど子どもたちの運動能力やコミュニケーション能力を高めていく。	子育て課
19	部活動等への支援	各学校の部活動の実態、要望に応じて部活動指導員を配置する。	学校課
20	学校施設の地域開放の充実	現在実施している、校庭、体育館などの開放利用の利便性を高めるため、貸し出し方式の見直しなどを検討する。	生涯学習課
21	子どもたちが利用しやすい公園のルール化	公園施設の利用について、ボール遊び等、子どもたちが公園管理に支障がない範囲で自由に体を動かすことができる、わかりやすいルールづくりと PR 方法を検討する。	緑と清流課
22	地域のスポーツ資源の活用	少子化が進む中で、将来にわたり生徒がスポーツ活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、地域のスポーツ関係団体、企業、大学などと連携し、人材や施設、ノウハウなど、地域のスポーツ資源を活用していく。	学校課 文化スポーツ課

新規



ウ 新たなスポーツとの出会いの創出

	具体的施策	概要	推進担当
23	アーバンスポーツ（マイノリティスポーツ） ¹⁸ の場所の検討	競技人口が少ないスポーツの活動場所について、公園やグラウンドなどの空地の一部利用を検討する。 また、スケートボードを実施する場所を検討する。	文化スポーツ課
24	ニュースポーツ（ハンドロウルなど）の普及活動の実施	日野市発祥のハンドロウルや、ボッチャ、モルックなどの体験会やイベントを実施し、普及に努める。 また、年齢や性別、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめる健康維持・増進に役立つニュースポーツの研究・開発・提供に取り組む。	文化スポーツ課
25	スポーツ DX の活用	地域で孤立している人や健康上等の理由で外出が困難な人等が、自宅でもスポーツを実施できるよう、オンライン配信などのデジタル技術を活用したイベントを実施する。	文化スポーツ課

新規

コラム7

「スポーツ DX」をご存じですか？

スポーツ DX の DX とは、「Digital transformation（デジタル トランスフォーメーション）」の略称で、「デジタル技術」によって、ビジネスや社会、生活の形・スタイルを変える（Transform する）ことを指しています。スポーツの実施に DX（デジタル技術）を取り入れることで、スポーツを「する」「観る」「支える」において様々なことを実現することができるようになります。

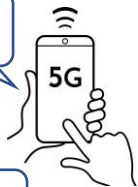
今後、日野市としても、時代の流れに沿ったスポーツの在り方を検討して参ります。

する



スマートフォンやパソコンなどの電子媒体を使って、自宅で気軽にスポーツをすることが可能となり、地域で孤立している人や健康上等の理由で外出が困難な人でも、様々な人々が平等にスポーツを実施できるようになります。

観る



近い将来、現在の 4G 回線が 5G 回線になることが予想されており、5G 回線になると通信速度が 4G 回線の約 20 倍となります。これにより、スポーツのライブ中継は従来以上の鮮明さをもったものへと変化し、スポーツ観戦をより楽しむことができるようになります。

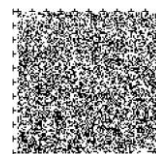
支える



スポーツ観戦においてはチケット販売が不可欠ですが、最近ではチケットの電子化が進んでおり、スマートフォンやタブレット等で QR コードを用いて入場することが可能となっています。これにより、スムーズな入場が実現となり、チケット係が不要となるため人件費の削減も見込めるようになります。

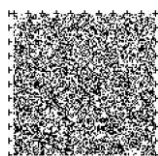
※参考文献：デジタルトランスフォーメーションチャンネル

¹⁸ アーバンスポーツ（マイノリティスポーツ）：BMX、スケートボード、パルクール、インラインスケート、ブレイクダンスなどといった都市型スポーツを指す。



エ スポーツ施設等の有効活用

	具体的施策	概要	推進担当
	26 南平体育館の利活用	「スポーツと健康」はもちろんのこと、「交流」や「防災」の拠点となる「まちなかアリーナ」として活用を図る。	文化スポーツ課
	27 指定管理者による施設の有効活用	市民の森ふれあいホール等の施設を効率的に管理し、市民のスポーツ実施率の向上に寄与する定期教室などを開催するだけでなく、安定した利用料収入を確保し、持続可能な事業展開を行うことができる事業者を公募する。	文化スポーツ課
	28 立川緑地野球場の利用日拡大の検討	利用日の拡大や、立川市との共同利用に向けた取組を検討する。	文化スポーツ課
	29 スポーツ用地の情報収集	スポーツ用地に転用できる可能性がある土地の動向について、定期的に情報収集を行う。	文化スポーツ課
	30 学校体育施設の地域開放促進	所管の部署と連携し、学校体育施設を学校教育に支障のない範囲で地域スポーツ活動の場として開放し、更にスポーツ活動の利便性を高めるように働きかける。	文化スポーツ課
	31 高校・大学施設の借用	高校及び大学施設の空き時間を市民に提供してもらうため、高校・大学との連携を図る。	文化スポーツ課
	32 関連付属施設の改善・整備	駐車場などの関連付帯設備の改善・整備に取り組む。	文化スポーツ課
	33 市内公共施設の利活用	公共体育施設をはじめとして、地区センター・交流センター・児童館などの市内公共施設をスポーツの場として提供し、スポーツ活動の場の拡大を図る。 また、各施設でどのようなスポーツができるかの情報を同時に提供していく。	文化スポーツ課
	34 屋外体育施設へのナイター設置	施設の立地状況を踏まえながら、屋外体育施設への夜間照明設備の設置の検討を行う。	文化スポーツ課
新規	35 スポーツ施設の老朽化やコンディション不良を解消するための改修・整備	グラウンド、テニスコート等、スポーツ拠点機能の中核を担う公共体育施設について、老朽化やコンディション不良を解消するため、日野市体育施設個別施設計画に基づき、改修・整備を進めていく。	文化スポーツ課
新規	36 野球場の整備の検討	不足する野球場の整備に向け、場所や機能等について、利用者の声を聞きながら検討していく。	文化スポーツ課



日野市公共施設等総合管理計画に基づいたスポーツ施設の在り方の検討

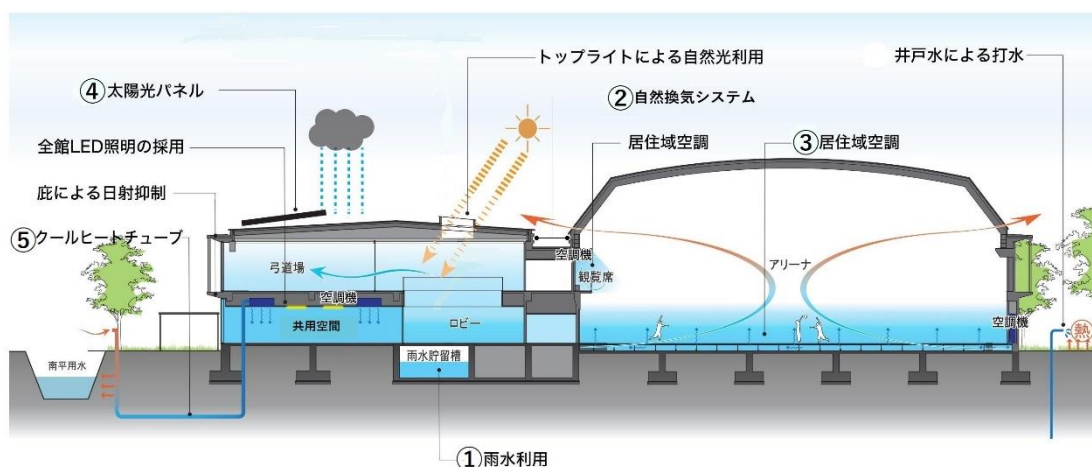
人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえ、長期的な視点をもって、更新・長寿命化等を計画的に行い、財政負担を軽減・平準化し、公共施設等の最適な配置を実現することが必要となっていることから、日野市公共施設等総合管理計画に基づき、スポーツ施設の在り方を検討していく。

文化スポーツ課

コラム8

新・南平体育館は南平の自然エネルギーを活用した

「エコアリーナ」になっているのはご存じですか？



令和4年4月にリニューアルオープンした南平体育館は、環境を配慮した「エコアリーナ」となっています。どのような配慮が行われているのかご紹介します。

①「雨水利用」

屋根に降った雨水を地下ピットに溜め、ろ過することでトイレ洗浄水として活用しています。

②「自然換気システム」

風力を活用し自然開閉する窓を設けることで建物内換気を行い、電気代等のランニングコスト削減を図っています。

③「居住域空調」

アリーナは大空間を効率的に空調し、微風で競技に影響の少ない居住域置換換気システム（床輻射式冷暖房設備）を採用しています。使用方法に合わせ空調エリアを2つに分けて使用することも可能です。

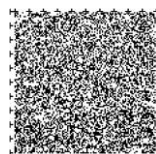
④「太陽光パネル」

建物の位置する場所が東京都の「東京ソーラー屋根台帳」において、太陽光発電の設置に適した潜在性を有することが認められており、太陽光パネル 30kw 設置し自然光による発電を行うことで1年間にCO₂を約 17t、石油を約 7kℓ削減することが期待されます。

⑤「クールヒートチューブ」

空調用の外気は、埋設したクールヒートチューブを介して取り込まれ地中熱により冷温された外気を取り入れることで空調負荷を低減しています。

※参考文献：「南平体育館建設物語第4号」から引用



障害者スポーツとは、身体障害や知的障害などの障害のある方が行うスポーツのことです。障害のある方のために考案された独自のスポーツもありますが、その多くは、既存のスポーツを障害のある方が楽しめるようにルールや道具を修正したものです。子どもや高齢者にとっても誰でも安全に楽しむことができるスポーツであり、同時に生きがいや健康づくりに対しても良い影響をもたらします。

また、障害のある方や子ども、高齢者が暮らしやすい社会の実現に向けて、「障害者スポーツ」を普及していくことはとても重要なことだと考えています。

スポーツ基本法第9条に定められている国の「スポーツ基本計画」においても、障害者スポーツ振興の体制や方策の充実が重点的に盛り込まれていたり、2025年にはデフリンピック¹⁹の日本初開催が予定されており、70～80の国や地域から多くの選手が出場します。

これらを踏まえて、今後、障害の有無に関わらず、誰もが生涯に渡ってスポーツを実施するための基盤を整備し、身近な場所でスポーツを実施できる環境を整備していくために、本市においても様々な具体的施策を検討して参ります。

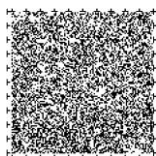
そして、これらの施策を通じて、障害の有無や年齢、性別、国籍などを問わず、全ての人が分け隔てなくスポーツを楽しみ、互いを理解・尊重しながら暮らせるような共生社会の実現を目指して参ります。

「障害のある方のスポーツ実施率」

※参考文献：国の第3期スポーツ基本計画

- ・令和3年度の障害のある方の週1回以上のスポーツ実施率は、成人で31.0%、若年層で41.8%となっています。
成人全般のスポーツ実施率56.4%と比較すると、障害のある方のスポーツ実施率は低い傾向にあります。
- ・過去1年に1回もスポーツを実施していない人の割合は、成人で41.3%、若年層で26.9%となっています。

※上記の「成人」は20歳以上、「若年層」は7～19歳を指しています。



¹⁹ デフリンピック：デフリンピックのデフ（Deaf）とは、英語で「耳がきこえない」という意味であり、聴覚障害者による国際スポーツ大会を指す。オリンピック同様、4年に一度、夏季大会と冬季大会が開催されている。

基本施策 2 障害者スポーツの普及

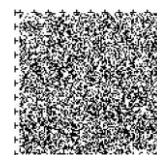
オ 障害のある方がスポーツに親しめる機会の創出

	具体的施策	概要	推進担当
38	施設のバリアフリー化の推進	リニューアル後の南平体育館をモデルとし、誰もが利用しやすい施設を目指し、各施設のバリアフリー化を推進する。	文化スポーツ課
39	障害者施設訪問によるスポーツ指導	障害者施設を訪問し、ニュースポーツを中心に、スポーツを楽しむことを趣旨とした指導を行い、障害の程度に応じたスポーツを提供する。	文化スポーツ課
40	障害のある方とのスポーツ交流の推進	障害者支援施設、福祉施設、特別支援学校、特別支援学級、日野市社会福祉協議会などと協力・連携し、障害者がスポーツを始め、続けられるきっかけ作りを行う。	文化スポーツ課 障害福祉課

基本施策 2 障害者スポーツの普及

カ 障害者スポーツを支える環境の整備

	具体的施策	概要	推進担当
	41 障害のある方とのスポーツ交流の推進	特別支援学級や日野市社会福祉協議会等の協力ののもとで、障害の有無に関わらず誰もが参加し楽しめるレクリエーションを実施し、子ども達が触れ合い、互いを知るきっかけづくりを行う。	子育て課 学校課
	42 障害者スポーツなどの理解と普及	障害者スポーツの競技への理解と普及が図れるよう、引き続き障害者スポーツが体験できる教室や UD スポーツのイベントなどを実施する。	文化スポーツ課
	43 障害者スポーツの啓発	障害者スポーツの紹介や体験教室などの開催、大規模イベントとタイアップをして障害者スポーツの普及に努める。	文化スポーツ課
新規	44 スポーツによる交流を通じた障害理解の推進	スポーツによる交流を通じて、スポーツを行う全ての方への障害理解を深める。	障害福祉課
新規	45 障害者スポーツの大会などの情報発信	パラスポーツやデフスポーツなど、障害者スポーツの大会を積極的に情報発信し、障害者スポーツを観る機会を創出する。	文化スポーツ課
新規	46 スポーツ DX の活用【再掲】	地域で孤立している人や健康上等の理由で外出が困難な人等が、自宅でもスポーツを実施できるよう、オンライン配信などのデジタル技術を活用したイベントを実施する。	文化スポーツ課



基本施策 3

スポーツのまち日野をめざして

「スポーツのまち日野」を目指していくためには、スポーツを「する」「観る」「支える」の全ての観点から市民へアプローチをかけ、「スポーツ文化」を成熟させていくことが重要だと考えています。そのためには、次の5つのアプローチを通じて「スポーツのまち日野」を目指して参ります。

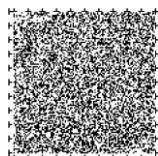
●「アスリート・指導者の発掘や育成」においては、競技スポーツ経験者などから優れた指導者の発掘や、スポーツ指導者に必要な専門的知識を習得する機会を提供して参ります。

●「地域のスポーツを支えるネットワーク」では、試合や競技に挑戦する選手を支えるトレーナー、コーチ、審判員、スタッフ、ボランティアの方々といった様々な人々の協力・支援なくして大きなスポーツの大会を成功させることはできません。また、日々の生活の中で、人々が行うスポーツを支える地域の指導者等の役割も重要です。こうしたスポーツを「支える」体制を充実する中で、時には支える側に、また時には支えられる側になることで、人と人との絆や思いやる心を育むことができますと考えられます。

●「活動団体・支援団体との連携の推進」においては、企業、大学、団体などと、これまで培ってきた信頼関係や協力体制を基盤に、さらなる連携した健康づくりを推進して参ります。また、トップレベルの競技スポーツを直に観戦する機会づくりや、トップスポーツチームの選手との交流にも取り組んで参ります。

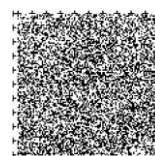
●「スポーツ関連情報の提供方法の充実」では、日野市文化・スポーツ功労者顕彰、日野市民スポーツ栄誉賞を贈呈した選手を周知することで、日野市で活躍する選手を応援する機運を醸成するとともに、観るスポーツや支えるスポーツへの興味や関心を高めて参ります。

●「東京 2020 レガシーの活用」では、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を経た現在、障害の有無や国籍等に関わらず市民が多様性を尊重するまちを、スポーツを通じて目指すといったことが注目されています。持続可能な社会や共生社会の実現など、様々な社会的課題について、スポーツを通じて解決するような取組が始まりつつあります。スポーツには人を健康にするだけでなく、社会を良い方向に変える「チカラ」があります。レガシーを「どのように残すのか」後世に向けて活用できるものを、施策を通じて、引き続き検討して参ります。



	具体的施策	概要	推進担当
47	競技スポーツ大会の実施	日頃の練習・鍛錬の成果を確認できる機会として、日野市体育協会加盟団体による市民体育大会のほか、自主大会の運営を実施する。	文化スポーツ課
48	中央大会への選手の派遣	市町村総合体育大会、都民体育大会、都民生涯スポーツ大会、都民ふれあいスポレク大会等、中央大会への選手派遣を行い、市を飛び越えた競技力向上の場の機会を提供する。	文化スポーツ課
49	日野スポーツスクールの実施	日野市体育協会加盟団体による日野スポーツスクールを実施し、主に子どもたちの競技力向上を図り、併せてスポーツの裾野を広げる。	文化スポーツ課
50	カテゴリー別の体験教室の実施	本人の志向に合わせた体験教室に参加できるよう、カテゴリーを分けた体験教室を実施する。	文化スポーツ課
51	競技人口増加への働きかけ	日野市体育協会加盟団体それぞれが、各々の競技人口増加に向けた働きかけを行い、スポーツ実施率の向上に努める。	文化スポーツ課
52	日野市体育協会及び競技団体による強化支援	ジュニア年代等、日野市体育協会加盟団体の強化選手の育成を行い、強化選手の競技力向上及び強化を図る。	文化スポーツ課
53	公認スポーツ指導者の育成支援	日野市体育協会等の公認指導者及びニュースポーツの公認指導者の育成及び派遣を行う。 また、専門講習会を実施し、参加の促進に努める。	文化スポーツ課
54	平山台文化スポーツクラブへの支援	平山台文化スポーツクラブが自立して運営していくため、市のホームページや広報などへの掲載、活動場所の提供、設備の整備などの支援を継続していくとともに、市内の総合型地域スポーツクラブの在り方を検討していく。	文化スポーツ課
55	指導者の育成(競技スポーツ)	ハイレベルな競技スポーツ経験者などから優れた指導者の発掘を行い、競技スポーツ指導者に必要な専門的知識を習得する機会の提供を行う。 また、市内団体等への指導者の派遣により、市民スポーツのさらなる活性化を図る。	文化スポーツ課
56	指導者の育成・派遣(健康体操サポーター)	健康体操サポーターの人数を増加させる。 また、市内で活動する自主グループ(市民グループ)へ、健康体操サポーターの派遣を積極的に実施する。	健康課

新規



基本施策3 スポーツのまち日野をめざして

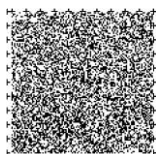
ク 地域のスポーツを支えるネットワーク

具体的施策		概要	推進担当
57	スポーツボランティアの養成	スポーツボランティアとして活躍するためのノウハウを学ぶことができるスポーツボランティア養成講座等を実施する。	文化スポーツ課
58	スポーツボランティアが活躍する場の提供	日野市で開催しているスポーツ大会の運営で、スポーツボランティアが活動できる場を作る。	文化スポーツ課
59	スポーツボランティア情報の提供	外部が発信する情報を活用し、スポーツボランティア情報を発信していく。	文化スポーツ課
60	市民顕彰・表彰（スポーツ大会等）	スポーツ大会等で活躍があった市民を顕彰・表彰する。	文化スポーツ課
61	健康づくり活動	「健康づくり推進員」や「健康サポーター」の育成を継続し、地域における健康づくりを推進する。	健康課

基本施策3 スポーツのまち日野をめざして

ケ 活動団体・支援団体との連携の推進

具体的施策		概要	推進担当
62	トップスポーツチームとの相互連携	市内を拠点に活動する「日野レッドドルフィンズ」及び「コニカミノルタ陸上競技部」、日野市などをホームタウンとする「東京ヴェルディ」と相互連携し、市内のスポーツ普及に努めつつ、地域の課題解決にも取り組んでいく。 また、トップスポーツチームの活躍を市の広報などの媒体でも積極的に周知していく。	文化スポーツ課
63	市内民間スポーツクラブとの連携	市内民間企業との連携により、スポーツ環境の整備・充実を図る。	文化スポーツ課
64	企業・民間スポーツクラブからの指導者派遣	企業・民間スポーツクラブから市民サークル等の活動への指導者派遣を行い、実業団チームや民間スポーツクラブの専門的知識を活用し、スポーツ活動の活性化を図る。	文化スポーツ課
65	企業とのスポーツ交流	スポーツを通じた市民と企業の交流大会等を検討する。	文化スポーツ課
66	市内及び近隣大学との連携	明星大学、実践女子大学、都立大学、帝京大学、中央大学など、市内及び近隣大学機関とのスポーツによる連携を図る。	文化スポーツ課

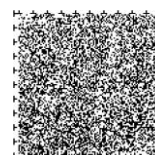


67	企業、大学、団体などと連携した健康づくり	日野市だけでなく他自治体や企業、大学など民間団体の主管課と企業や大学など民間団体の対話の場を積極的に創出していくことで、それぞれが持つ資源やノウハウを出し合い、行政だけでは得られない付加価値づくりを目指す。 また、他自治体や民間団体と共に体と共にヘルスケア関連のデータ活用の仕組みなども研究していく。	企画経営課
68	外部講師の招致【再掲】	市内の企業等や大学のスポーツ選手などとの交流を通じて、子どもたちにスポーツや運動の魅力を発信する。	学校課
69	行政機関の事業連携体制の整備	行政サービスとその他関係機関の事業との連携を図り、効率的・効果的なサービスの提供を行う。	文化スポーツ課

基本施策3 スポーツのまち日野をめざして

コ スポーツ関連情報の提供方法の充実

具体的施策		概要	推進担当
70	日野市文化・スポーツ功労者顕彰、日野市民スポーツ栄誉賞の周知	市の広報、ホームページなどを通じて、日野市文化・スポーツ功労者顕彰、日野市民スポーツ栄誉賞の周知を図る。	文化スポーツ課
71	ポータルサイトによるスポーツサークル等の情報提供	生涯学習ポータルサイト「HiKnow!」(ひのう)の活用によるスポーツ団体等の情報発信を推進していく。	文化スポーツ課 生涯学習課
72	ウォーキングマップの見直し	既存のウォーキングマップを、更に「歩きたくなる」マップとするために、コースの修正・追加を含めたバージョンアップを検討する。	文化スポーツ課
73	広報媒体を活用した健康・スポーツ情報の発信	市民が求める健康やスポーツに関する情報を、市の広報媒体(広報・ホームページ・LINE等)を活用し、関係各課とも連携しながら積極的に紹介していく。	文化スポーツ課 健康課
74	多様なメディアの活用による情報発信	ホームページ・広報紙・LINE・パンフレット・地域情報誌等様々なメディアを活用し、地域スポーツ活動に関する情報のリアルタイムでの提供を図る。	文化スポーツ課



サ 東京 2020 レガシーの活用

具体的施策		概要	推進担当
75	市民との連携による取組	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会で活躍された選手を市民と一緒に応援していけるようなイベントを実施する。	文化スポーツ課
76	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーの継承	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを継承するために、アスリート選手を招いたイベントを市民と共に検討できるよう推進する。	文化スポーツ課
77	トップアスリートとの交流	オリンピック・パラリンピック選手や、トップアスリート選手との交流を通じ、競技力向上のきっかけづくりを図る。	文化スポーツ課
78	スポーツの観戦情報の提供や観る機会の創出	様々なスポーツの観戦情報の提供や、パブリックビューイングなどの実施を通じて、スポーツを「観る」機会を提供していく。	文化スポーツ課
79	子どもたちの観戦機会の創出	日野市の子どもたちが、民間のスポーツチームや日野市にゆかりのある選手の活躍する大会などを観戦できる機会を創出し、スポーツで夢と希望を与えられるような取組を検討していく。	文化スポーツ課
80	学校 2020 レガシーの充実	各学校がオリンピック・パラリンピック教育で取り組んできたことを、今後も学校 2020 レガシーとして取り組めるよう、各学校の教育課程に位置付ける。	学校課
81	ウクライナとの国際交流	ウクライナの社会情勢の様子を見ながら、ウクライナに関するイベントを検討する。	文化スポーツ課

コラム9

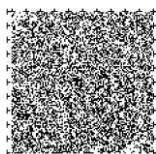
2024 年のパリオリンピック・パラリンピックの

追加種目と新種目は？

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会では、新種目として「空手・スケートボード・スポーツクライミング・サーフィン」の 4 種目が新しく追加されました。

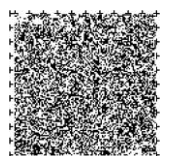
日野市では、ウクライナの空手選手団をホストタウンとして受け入れ、市民の森ふれあいホールが練習場所になるなど様々な交流を持つことができました。

そして、パリ 2024 オリンピック・パラリンピック競技大会では、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に続き、「スケートボード・スポーツクライミング・サーフィン」が追加種目、「ブレイキン(ブレイクダンス)」が新種目として追加されます。この4つは、芸術性とスポーツ性を兼ね揃えた若者に人気の種目です。新しい種目によってアップデートされていくオリンピック・パラリンピック競技大会からこれからも目が離せません！



第 5 章

計画の推進について



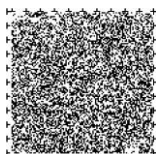
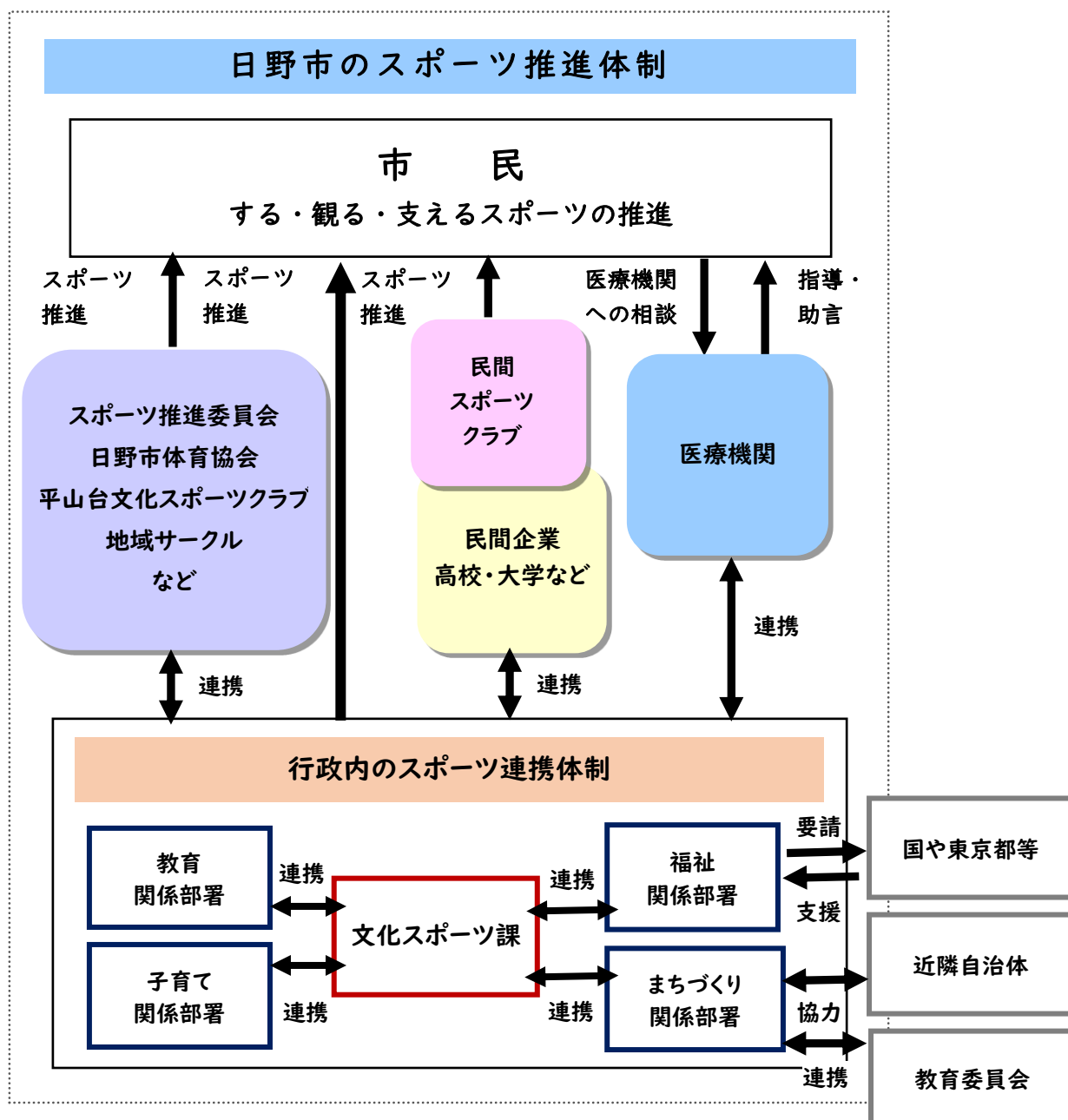
Ⅰ 計画の推進体制と進行管理

(Ⅰ) 推進体制

計画の推進に向けて、図表 33 のとおり、市民、民間企業、高校や大学、地域で活動するスポーツサークルなど市内関係団体などと連携を図って事業を進めていきます。

さらに、医療機関とも連携を図り、健康に対する意識啓発や指導・助言の協力を仰ぎます。

図表 33 スポーツ推進を図るためのイメージ図



(2) 進行管理

本計画の目標を達成するための進捗状況の確認として、図表 34 のとおり目標の状況確認を行います。

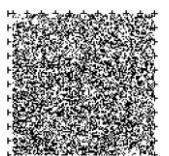
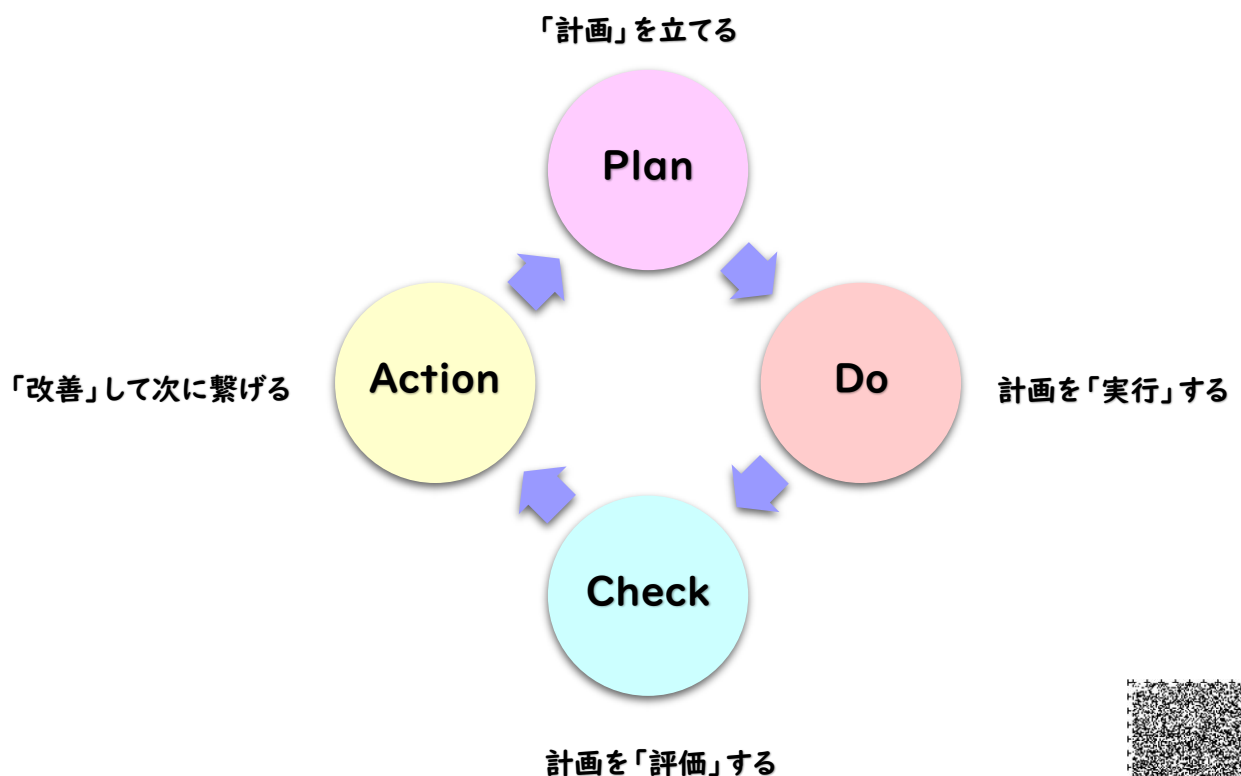
また、4 つの目標に対してそれぞれアンケート調査や年度終了後の目標値の確認を行うことで、目標の達成を常に意識した取組を行っていきます。

具体的には、図表 35 のような PDCA サイクルを展開し、適切に評価・改善をし、本計画に実行性をもたせていきます。

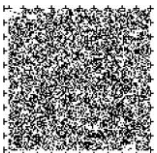
図表 34 目標値に対する状況確認

目標 1	週 1 回のスポーツ実施率	令和 8 年度
目標 2	週複数回のスポーツ実施率	令和 8 年度
目標 3	市内体育施設の年間利用者数の増加	毎年
目標 4	市内で実施されるスポーツ事業への参加者数の増加	毎年

図表 35 PDCA サイクルのイメージ



資料編



「第2次日野市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱」

令和2年3月6日制定

(設置)

第1条 第2次日野市スポーツ推進計画（以下「計画」という。）の策定にあたり、多様化する市民のニーズに対応し、市民がスポーツに親しみやすい環境を実現する計画とするため、第2次日野市スポーツ推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次の事項について検討し、その内容を市長に報告する。

- (1) 計画の素案の作成に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、計画策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- | | |
|-----------------|------|
| (1) 学識経験者 | 1人 |
| (2) 公募市民 | 2人以内 |
| (3) スポーツ団体関係者 | 3人 |
| (4) 教職員または教職経験者 | 1人 |
| (5) 関係行政職員 | 9人以内 |

2 前項の委員は、市長が委嘱し、又は任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は、令和3年3月31日までとする。ただし、特別な事情がある場合は、期間を定めてこれを延長することができる。

(委員長及び副委員長)

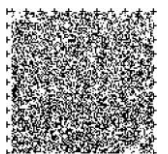
第5条 委員会に、委員長及び副委員長各1人を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定め、副委員長は委員の中から委員長が指名する。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。
- 4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたとき、は、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立するものとする。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 4 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。



(庶務)

第7条 委員会の庶務は、産業スポーツ部文化スポーツ課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、別に定める。

付 則

- 1 この要綱は、令和2年3月6日から施行する。
- 2 この要綱は、第4条に規定する日をもってその効力を失う。

「第2次日野市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱の一部を改正する要綱」

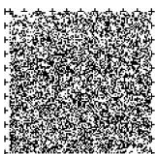
令和4年4月1日制定

第2次日野市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱（令和2年3月6日制定）の一部を次のように改正する。

第4条中「令和3年3月31日」を「令和5年3月31日」に改める。

付 則

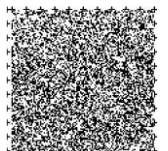
- 1 この要綱は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 令和3年3月31日現在において、この要綱の施行日前の第2次日野市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱第3条に規定する委員の任にあった者は、令和3年4月1日以降も引き続きその任にあったものとみなす。



「第2次日野市スポーツ推進計画策定経過」

- 第1回委員会：令和4年4月25日（月）18：30から
 - ・委員・事務局紹介
 - ・委員長・副委員長の選任
 - ・会議の役割と今後のスケジュールについて
 - ・第1次日野市スポーツ推進計画の概要について
 - ・上位計画（第3期スポーツ基本計画）について
 - ・アンケート調査について
- 第2回委員会：令和4年6月27日（月）18：30から
 - ・日野市スポーツ推進計画における「スポーツ」の定義について
 - ・「第1次日野市スポーツ推進計画」について
 - ・全4章・109事業の進捗状況について
 - ・各基本施策の進捗状況について
 - ・次期計画の体系（骨子）案について（資料5）
 - ・ヒアリングについて
- 第3回委員会：令和4年8月17日（水）18：30から
 - ・ヒアリングの状況について
 - ・基本方針・施策の方向・具体的施策について
 - ・計画の期間について
 - ・今後のスケジュール確認について
- 第4回委員会：令和4年11月10日（木）18：45から
 - ・第2次日野市スポーツ推進計画素案について
 - ・パブリックコメントについて
- 第5回委員会：令和5年2月2日（木）18：30から
 - ・パブリックコメントの結果報告について
 - ・パブリックコメントを反映した計画書について
 - ・計画の概要版について

◎令和5年3月策定



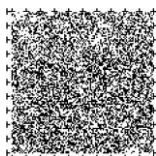
「第2次日野市スポーツ推進計画策定委員会」（敬称略、順不同）

【委員】 ※◎は委員長、○は副委員長

- ◎ 村岡 慈歩 （明星大学 教育学部 教育学科 教授）
- 仁賀田 宏 （日野市産業スポーツ部 部長）
- 安藤 重男 （市民委員）
- 河治 すみ子 （市民委員）
- 佐藤 實 （一般社団法人日野市体育協会 事務局長）
- 樋口 専二 （一般社団法人平山台文化スポーツクラブ 理事・事務局長）
- 伊野 直美 （日野市スポーツ推進委員会 副議長）
- 山下 義之 （日野市健康福祉部 部長）
- 小林 真 （日野市教育部 参事）
- 馬場 章夫 （日野市教育委員会学校課 統括指導主事）

【事務局】

- 木暮 博 （日野市産業スポーツ部文化スポーツ課 課長）
- 室瀬 英 （日野市産業スポーツ部文化スポーツ課スポーツ係 係長）
- 外口 香織 （ // 主任）
- 山本 杏奈 （ // 主事）



表紙について

表紙のイラストは、様々なスポーツのイラストを取り入れ、本計画の理念を表現しています。
表紙に掲載したスポーツについてご紹介します。 ※掲載したスポーツはあくまで一例です。



(ページ上段)

- ①ゴルフ
- ②ソフトボール
- ③野球
- ④卓球
- ⑤陸上
- ⑥サッカー
- ⑦空手
- ⑧ラグビー

(ページ下段)

- ⑨ボッチャ
- ⑩パラバドミントン
- ⑪水泳
- ⑫車いすテニス
- ⑬ブラインドサッカー
- ⑭自転車競技
- ⑮スケートボード

第2次日野市スポーツ推進計画

- 発行日 : 令和5年3月発行
- 編集・発行: 日野市産業スポーツ部文化スポーツ課
- 住所 : 〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1
- 電話 : 042-514-8465 (直通)
- FAX : 042-581-2516
- E-mail : sports@city.hino.lg.jp
- 日野市ホームページ: <https://www.city.hino.lg.jp>

